

# 令和 5 事業年度業務実績等報告書

令和 6 年 6 月

地方独立行政法人  
那霸市立病院



## 那覇市立病院の概要

### 1. 現況

#### ①法人名

地方独立行政法人那覇市立病院

#### ②本部の所在地

沖縄県那覇市古島2丁目31番地1

#### ③役員の状況

(令和5年5月1日現在)

役職名	氏名	備考
理事長	外間 浩	病院長
理事	新垣 均	副病院長
理事	豊見山 直樹	副病院長
理事	宮田 裕史	副病院長
理事	宮里 浩	副病院長
理事	照屋りつ子	副病院長
監事	城間 貞	公認会計士
監事	仲松 正人	弁護士

#### ④設置・運営する病院

別表のとおり

#### ⑤職員数(令和5年4月1日現在)

1,210人(理事長1人 正職員900人 フルタイム職員257人 パートタイム職員52人)

### 2. 那覇市立病院の基本的な目標等

那覇市立病院(以下、市立病院)は、那覇市及び地域の中核的急性期病院として、救急医療及び地域医療支援病院等の質の高い医療を提供するとともに、臨床研修指定病院及び地域がん診療連携拠点病院として医師の育成にも貢献してきた。

今後も、市立病院は公的病院としての使命の確実な実現を図り、地域住民に信頼される医療を速やかに提供するため、国の医療制度改革や医療をとりまく社会環境の変化に迅速に対応して安全・安心かつ高度で良質な医療を提供することが本院の使命である。

このため、市立病院は、救急医療、小児医療、周産期医療、がん診療をはじめ、市民が求める地域に根ざした医療の提供に努め、医療水準の向上を図り、あわせて経営の効率化等に積極的に取り組み、市民の健康の維持・増進に寄与することが求められている。

また、病院建替に向け、那覇市と十分な連携をはかり地域医療構想調整会議等を踏まえ、新病院建設を推進する。建築資金借入金の償還能力を高めるため経営の効率化及び改善を不断なく行う。

(別表)

病院名	那覇市立病院
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の中核的急性期病院</li> <li>○救急告示病院</li> <li>○地域がん診療連携拠点病院</li> <li>○地域周産期母子医療センター</li> <li>○臨床研修指定病院</li> <li>○日本医療機能評価機構認定病院</li> <li>○地域医療支援病院</li> <li>○紹介受診重点医療機関</li> </ul>
設立	昭和55年5月1日
病床数	470床
診療科目	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、腎・泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、消化器外科、乳腺外科、内分泌内科、糖尿病内科、腎臓内科、血液内科、内視鏡外科、放射線診断科、放射線治療科、救急科、病理診断科、脳神経内科、心臓血管外科、形成外科 以上36診療科
敷地面積	25,188 m <sup>2</sup>
建物規模	<p>本館：建築面積6,534 m<sup>2</sup> 延べ面積23,930 m<sup>2</sup> 地上6階 地下2階建</p> <p>北館：建築面積1,228 m<sup>2</sup> 延べ面積7,522 m<sup>2</sup> 地上4階 地下3階建</p> <p>立体駐車場：建築面積1,691 m<sup>2</sup> 延べ面積4,881 m<sup>2</sup> 地上3階 地下1階建</p> <p>院内保育所：建築面積218 m<sup>2</sup> 延べ面積209 m<sup>2</sup> 1階平屋建</p>

## 様式1－1－1 年度評価 評価の概要

1. 評価対象に関する事項			
法人名	地方独立行政法人 那覇市立病院		
評価対象事業年度	年度評価	令和5年度（第4期4年目）	
	中期目標期間	令和2年度～令和5年度	
2. 評価の実施者に関する事項			
那覇市長			
法人所管部局		担当課	
3. 評価の実施に関する事項			
4. その他評価に関する重要事項			

## 様式1－1－2 年度評価 総合評定

1. 全体の評定	
評定	
評定に至った理由	

## 2. 法人による自己評価

### 法人自己評価

第4期中期計画の最終年となる令和5年度は、令和4年度とは大きく異なり、5月8日よりコロナが2類相当から5類感染症へ移行となった。令和4年度はコロナの影響を大きく受けているが、令和5年度はその影響も軽減され、令和4年度以上の実績を出せた項目も多い。令和5年度の業務実績全体を通して、年度計画を概ね順調に実施できたものと自己評価する。

以下、令和5年度実績を簡潔に総括する。

「市立病院としての役割の発揮」について、救急医療では、現在2名の救急医が平日日中の救急車・地域連携室経由の患者の診療を担っており、救急医療体制の維持・充実に貢献している。夜間救急は専科の医師が担当しているが、医師不足により令和4年度同様に曜日によって受入時間の制限を設けており、365日24時間体制の救急患者の受け入れ体制には戻せていない。救急患者数は年間受診総数27,977人で、令和4年度と比較して、3,696人の増加となった。入院治療の必要のない患者や軽症者の受診(不急の救急受診)については、救急車・徒歩共に増加している。令和4年度と比較し、受診者数が大きく増加したのが、内科、小児科、外科、整形外科であった。外科と整形外科は時間内、時間外、休日、深夜すべての時間帯で増加し、内科と小児科は時間内の受診が減少したが、それ以外の時間帯はすべて増加した。入院するケースも、令和4年度の4,573人に対し令和5年度は5,329人と、756人増加した。時間内に近隣医療機関から救急受診依頼を受けた場合は、急病センターの総合初診で対応しており、令和4年度の受診者数1,166人（うち入院473人、入院率40.5%）に対し、令和5年度は受診者数1,456人（うち入院581人、入院率39.9%）と、より多くの患者を受け入れることができた。救急車受入数は4,875台と令和4年度と比して286台増加、時間内での受入要請が418名増加し、時間外は142名減少した。

その他の取り組みとして、那覇市消防局と共にワークステーション型ドクターカーの運用を開始した。当院が救急隊員の知識や技能を向上させるための教育の拠点となり、救急要請がかかると当院の医師が救急隊員と共に救急車に同乗し、現場へ出動して早期に診療を行い、その後当院へ患者が搬送される連携協働体制を構築した。

小児医療の充実として、当院の小児科医を主体に、琉球大学病院小児科及び近隣小児科開業医の応援を受け、365日24時間体制で救急患者を受け入れる体制を維持していたが、令和6年3月1日より当院小児科医の退職や休職に伴い、深夜帯の救急体制維持に必要な人員の確保が難しいことから、午前0時から午前8時30分まで小児科救急診療を休止することとなった。休止期間中の救急車、重症者の受け入れについて県立南部医療センター・こども医療センターと事前に調整を行った。

地域周産期母子医療センターでは、地域医療機関と連携し小児・周産期医療を提供することで地域医療に貢献した。

疾病予防対策の関連について、那覇市をはじめとする各市町村、全国健康保険協会、各共済組合、健康保険組合等と連携し、健診事業を実施した。指標について、令和4年度と比較して総受入件数を50件/日から55件/日まで増加させ、それに伴い人間ドック件数、健康診断件数が増加した。「高度医療の充実」として、令和5年度よりコロナの影響も少くなり、高度医療の関連指標項目は、一部を除き令和4年度より件数が増加した。目標には届かなかった項目もあるが、手術件数は大幅に増加し、急性期病院としてあるべき体制に戻りつつある。

「医療機器の計画的な更新・整備」については、医療を持続的に提供できるよう、主な更新機器として、磁気共鳴画像診断装置、マンモグラフィーシステム等を更新した。運営費交付金を財源として患者搬送用救急車、車椅子仕様車等も更新した。また、電子カルテシステム及び各部門システムを更新した。

「地域医療機関との連携推進・強化」について、令和5年度においては、地域医療支援病院運営委員会を2回開催し、当院の業務実績報告と状況報告を地域の各機関・地域の代表に報告を行った。また、令和5年度も地域医療連携交流会を開催した。「急性期病院と在宅の連携」をテーマに、那覇市医師会、在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問診療所等の連携機関に講演していただいた他、地域医療機関235名の参加者と交流し意見交換を行った。

令和5年9月1日には紹介受診重点医療機関に認定された。認定医療機関として、定期受診の患者を地域医療機関へ案内するよう各診療科と共に取り組んだ。紹介率は令和4年度を大きく上回り、逆紹介率は令和4年度並みとなった。

「業務運営の改善及び効率化」に関して、令和6年度から施行される医師の時間外労働の上限規制に対応するため、医師の時短計画を作成し、沖縄県よりB水準及び連携B水準の指定を受ける事ができた。それにより、連続勤務時間及び勤務間インターバルの管理や代償休息の付与等、医師の健康確保措置が義務となることから、現行の勤怠システムでは対応が難しくなると考えられたため、医師の働き方改革に対応した勤怠システムの業者選定を行った。新システムは令和6年10月に本稼働予定となっている。また、10月より長時間労働の医師については、毎月面接指導医師により面談のトライアルを実施した。その他、医療安全のための病棟配置薬の見直しへの取り組みや、バス委員会での多職種連携強化の取り組みなどを行った。

「財務内容の改善」に関して、医業収益の確保は厳しい状況が続いている。コロナの影響が軽減されてきたとはいえ、院内クラスターが令和5年5月、6月、7月、9月、令和6年1月、3月と頻繁に発生していたことにより、医療スタッフの確保が追いつかなかつたため、病床稼働が455床の全稼働に至らなかつた。費用の支出は年々増加する一方だが、予算執行においては会計実施規程等に基づき適正かつ効率的・効果的な事業運営を行い、補助金等（令和5年度の新規補助金についてはP40参照）を有効活用することにより自己財源確保に努めた。また、法人の経営強化のため、令和5年6月に法人本部を開設した。法人本部は理事長、理事会の直下に位置し、院内及び院外からの経営に関わる情報の集約を行い、その分析のもと、経営方針立案を行い、病院経営に寄与できた。収益強化につながる動きの一例として、処置及び手術の休日加算・時間外加算・深夜加算の施設基準を「2」から「1」に変更した。

	<p>「その他の業務運営」市立病院建替について、令和4年度から引き続き、山留・掘削工事、地業工事を行った。不発弾の発見・処理、台風6号の影響等により工事の進捗が遅滞気味ではあったが、地下基礎工事ののち、4階床まで鉄骨建方等進捗し、その中で躯体・設備工事等を行っている。</p> <p>外国人対応については、令和5年5月よりコーディネーター3名配置に伴い国際医療支援室の開設、12月にはJMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）を取得した。JMIPの受審を通して、外国人患者対応マニュアル、コミュニケーションツールの作成、通訳タブレットの台数増加など、これまで以上に院内整備の強化ができた。コロナの渡航制限も緩和され、外国人受診者数は930件から1,500件に増加した。そのうち、訪日外国人の受診者数が令和4年度と比べ約6.5倍に増加した。</p> <p>最後に、令和5年度の決算状況は、医業収益14,782,677,900円で令和4年度比6.8%（約9億円）の増収となった。コロナ5類移行による制限緩和と患者数の復調により医業収益は増収となったが、前述した院内クラスターの発生及び医療スタッフ確保の困難等により455床全稼働には至っておらず、医業収支は1,412,676,360円のマイナスとなった。また、補助金等収益及び営業外収益を合わせた経常収支においても743,965,298円の赤字、最終的には総収益は15,950,918,342円（令和4年度比0.5%増）、総費用17,099,229,887円（令和4年度比4.7%増）、当期純損失1,148,311,545円となった。赤字となった要因として、既存病棟解体に伴うアスベスト除去費用（資産除去債務）として386,288,510円を損失計上した他、新病院開院（470床稼働）へ向けた人員整備や新病院建設工事費支払いに伴う消費税計上等があつた。</p>
--	--

全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項

### 3. 評価委員会の全体的な意見

### 4. 項目別評価における主要な課題、改善事項など

項目別評定で指摘した課題、改善事項	—
その他改善事項	—
那覇市長による改善命令を検討すべき事項	—

### 5. その他事項

監事等からの意見	—
その他特記事項	—

様式1－1－3 年度評価 大項目別評定総括表

中期計画（中期目標）	年度評価（大項目）				項目別調書No.	備考
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A	A	A		4-1、4-2、4-3	
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A	A	A		4-4	
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	A	A		4-5	
第4 その他業務運営に関する重要事項	A	A	A		4-6	

第5 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	評価対象外	4-7	
第6 短期借入金の限度額	評価対象外	4-8	
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	評価対象外	4-9	
第8 剰余金の用途	評価対象外	4-10	
第9 料金に関する事項	評価対象外	4-11	
第10 那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則(平成20年那覇市規則第4号) 第7条で定める事項	評価対象外	4-12	
第11 那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則第8条で定める事項	評価対象外	4-13	
大項目評価に関する特記事項	中期計画第5から第11について、法第26条の規定に基づき中期計画で定める事項となっているため、中期目標に該当する指示は無く、評価の対象外である。		

様式1-1-4-1 年度評価 小項目別評定調書（第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 市立病院としての役割の發揮）

1. 当項目に関する情報				
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 市立病院としての役割の發揮				
業務に関連する政策・施策	(1) 救急医療体制の維持・充実 (2) 充実した小児・周産期医療の確保 (3) 災害時対応及び緊急時における医療支援 (4) 保健所との連携 (5) 市の施策との連携	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—	
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載		関連する政策評価・行政事業レビュー	—

## 2. 主要な経年データ

	①主要なアウトプット（アウトカム）情報							②主要なインプット情報				
	指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
急病センター受診患者数				38,597人	15,725人	12,769人	24,281人		—	—	—	—
うち入院患者数				4,719人	3,535人	3,758人	4,573人	5,329人	—	—	—	—

救急医療体制の充実・強化	うち救急車受入数		4,773 台	4,145 台	4,470 台	4,589 台	4,875 台			—	—	—	—
	救急車の受入率		93.2%	94.0%	90.0%	83.0%	82.0%			—	—	—	—
小児・周産期医療の充実	小児外来患者		34,545 人	17,442 人	19,660 人	23,444 人	29,258 人			—	—	—	—
	小児入院患者		16,638 人	13,005 人	11,927 人	11,851 人	13,858 人			—	—	—	—
	小児救急患者		17,966 人	5,305 人	5,876 人	9,301 人	10,873 人			—	—	—	—
	うち入院患者		1,173 人	603 人	613 人	925 人	1,021 人			—	—	—	—
	NICU・GCU 入院患者数		3,879 人	3,773 人	3,514 人	2,923 人	3,205 人			—	—	—	—
	分娩件数		379 件	343 件	267 件	252 件	305 件			—	—	—	—
	うち帝王切開数		173 件	144 件	119 件	119 件	119 件			—	—	—	—
	ハイリスク妊娠患者数		94 人	77 人	92 人	97 人	86 人			—	—	—	—
	ハイリスク分娩患者数		82 人	75 人	68 人	84 人	68 人			—	—	—	—
災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力	災害訓練回数		7 件	0 件	0 件	0 件	5 件			—	—	—	—
	災害訓練参加者数		35 人	0 人	0 人	0 人	62 人			—	—	—	—
	災害研修会回数		7 回	0 回	3 回	5 回	3 回			—	—	—	—
	災害研修会参加者数		11 人	0 人	4 人	8 人	3 人			—	—	—	—
	被災地等への派遣件数		1 件	15 件	21 件	1 件	1 件			—	—	—	—
疾病予防対策の関連指標	特定健診件数		2,568 件	1,496 件	1,716 件	1,707 件	1,614 件			—	—	—	—
	特定保健指導件数		492 件	463 件	489 件	585 件	805 件			—	—	—	—
	がん検診件数		424 件	220 件	267 件	364 件	256 件			—	—	—	—
	人間ドック件数		4,708 件	3,555 件	3,735 件	4,410 件	5,029 件			—	—	—	—
	健康診断件数		3,722 件	3,743 件	4,059 件	4,571 件	4,946 件			—	—	—	—
在宅医療の関連指標	退院調整実施件数		11,122 件	8,658 件	7,358 件	8,079 件	9,558 件			—	—	—	—
	訪問看護指示書件数		206 件	243 件	260 件	300 件	301 件			—	—	—	—
	介護保険主治医意見書件数		541 件	414 件	402 件	474 件	498 件			—	—	—	—
	在宅療養支援診療所への紹介件数		1,337 件	760 件	1,186 件	874 件	1,144 件			—	—	—	—
市民への情報提供の関連指標	広報誌への医療情報掲載数		0 回	3 回	1 回	0 回	2 回			—	—	—	—
	ホームページへの掲載数		2 回	2 回	2 回	2 回	2 回			—	—	—	—
	新聞への医療関連広告数		8 回	0 回	2 回	2 回	2 回			—	—	—	—
	医学雑誌配布		1 回	0 回	1 回	1 回	1 回			—	—	—	—
	講演会開催数		27 回	0 回	0 回	0 回	0 回			—	—	—	—

### 3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価

	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価				評価委員会意見	市長による小項目評価
				業務実績					

中期目標 第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項												
	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	第1 同左	—	—	—	—	—					
1 市立病院としての役割の発揮 (1)救急医療体制の維持・充実												
地域医療に貢献するため、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図ること。また、救急搬送の受け入れをスムーズに行えるよう、消防や医師会等の関係機関と連携を図ること。												
(1)	1 市立病院としての役割の発揮 (1)救急医療体制の維持・充実 地域医療に貢献するため、引き続き365日24時間救急医療体制を維持する。 また、救急搬送の受入れを円滑に行えるよう、消防や医師会等の関係機関と連携し、救急医療体制の充実を図る。 なお、新病院建設工事期間中においては、救急搬送の受入れに影響が出ないよう、動線計画等に十分配慮する。	1 同左  (1)同左 ア 消防や医師会等の関係機関と連携し、救急医療に貢献する。 イ 引き続き365日24時間救急医療体制を維持する。	救急医療体制の維持・充実	<p>現在2名の救急医が、平日日中の救急車・地域連携室経由の患者の診療を担っている。令和4年度に比べ救急患者は3,696人増加しており、救急医療体制の維持・充実に貢献している。</p> <p>夜間救急は専科の医師が担当している。医師不足により令和4年度同様に曜日によって受入時間の制限を設けている。365日24時間救急医療体制に戻すために、医師確保が喫緊の課題の一つである。</p> <p>「地域からの紹介患者を断らない」を目的に令和4年から開設した総合初診外来では、令和4年度の受診者数1,166人（うち入院473人、入院率40.5%）に対し、令和5年度は受診者数1,456人（うち入院581人、入院率39.9%）と、より多くの患者を受け入れることができた。</p> <p>救急搬送の受入については令和5年度：4,875台（令和4年度：4,589台）であった。救急車受入率は82.0%と令和4年度より低下した。これは母数である救急要請台数が令和5年度：5,922台（令和4年度：5,541台）と381台増加していること、またコロナによる使用可能病床数の低減・ベッド満床の理由での受入不可事例があったことが要因と考えられる。院内クラスターが発生した令和5年5月、6月、7月、9月、令和6年1月、3月には、いずれも一週間程度の救急搬送受入の制限を行っていた。</p> <p>その他の取り組みとして、令和5年度より、那覇市消防局と共にワークステーション型ドクターカーの運用を開始した。院内で待機している救急隊員が、医師の指導下でライン確保や薬剤投与等の実務を学ぶ場となる。当院が救急隊員の知識や技能を向上させるための教育の拠点となり、救急要請がかかると当院の医師が救急隊員と共に救急車に同乗し、現場へ出動して早期に診療を行い、その後当院へ患者が搬送される連携協働体制を構築した。</p> <p>(救急医療の関連指標)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">指標名</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">令和4年度実績</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">令和5年度実績</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">令和5年度目標</td> </tr> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	エト 2 評価 III			
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標									

救急患者数	24,281人	27,977人	18,200人
うち入院患者数	4,573人	5,329人	4,500人
うち救急車受入数	4,589台	4,875台	4,700台
救急車の受入率	83.0%	82.0%	前年度並みを維持

(2) 充実した小児・周産期医療の確保

市民が安心して子どもを産み、育てられるよう、地域医療機関との連携に基づき、充実した小児・周産期医療を引き続き確保すること。

(2)	(2) 充実した小児・周産期医療の確保  周産期医療体制整備指針における周産期医療、いわゆるハイリスク妊娠婦の妊娠・分娩管理、新生児の集中治療管理等、入院が必要な患者に対し、総合周産期母子医療センターである沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、地域周産期母子医療センターである琉球大学医学部附属病院や沖縄赤十字病院と連携をして医療を提供していく。  また、他機関との連携に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子どもを産み、かつ育てられるよう医療の提供に努める。	(2) 同左 地域周産期母子医療センターとして、総合周産期母子医療センターである沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、地域周産期母子医療センターである琉球大学医学部附属病院や沖縄赤十字病院と連携をして医療を提供していく。	産婦人科医、小児科医を確保して母体搬送の受入体制を維持する。	<p>当院の小児科医を主体に、琉球大学病院小児科及び近隣小児科開業医の応援をうけ、365日24時間体制で救急患者を受け入れる体制を維持していたが、令和6年3月1日より当院小児科医の退職や休職に伴い、深夜帯の救急体制維持に必要な人員の確保が難しいことから、午前0時から午前8時30分まで小児科救急診療を休止することとなった。休止期間中の救急車、重症者の受け入れについて県立南部医療センター・こども医療センターと事前に調整を行った。</p> <p>地域周産期母子医療センターとして、地域医療機関と連携し小児・周産期医療を担い、安心して子どもを産み、かつ育てられる医療提供を継続した。</p> <p>帝王切開数は令和4年度並み、ハイリスク妊娠患者数・ハイリスク分娩患者数は減少したものの、分娩件数全体としては令和4年度の件数を大きく上回った。</p>	カエト 2 評価 III																																			
				<p>(小児・周産期医療の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>令和4年度実績</th> <th>令和5年度実績</th> <th>令和5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児外来患者数</td> <td>23,444人</td> <td>29,258人</td> <td>21,000人</td> </tr> <tr> <td>小児入院患者数</td> <td>11,851人</td> <td>13,858人</td> <td>14,300人</td> </tr> <tr> <td>小児救急患者数</td> <td>9,301人</td> <td>10,873人</td> <td>6,300人</td> </tr> <tr> <td>うち入院患者数</td> <td>925人</td> <td>1,021人</td> <td>740人</td> </tr> <tr> <td>NICU・GCU入院患者数</td> <td>2,923人</td> <td>3,205人</td> <td>3,800人</td> </tr> <tr> <td>分娩件数</td> <td>252件</td> <td>305件</td> <td>370人</td> </tr> <tr> <td>うち帝王切開数</td> <td>119件</td> <td>119件</td> <td>170人</td> </tr> <tr> <td>ハイリスク妊娠患者数</td> <td>97人</td> <td>86人</td> <td>前年度並みを維持</td> </tr> <tr> <td>ハイリスク分娩患者数</td> <td>84人</td> <td>68人</td> <td>前年度並みを維持</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	小児外来患者数	23,444人	29,258人	21,000人	小児入院患者数	11,851人	13,858人	14,300人	小児救急患者数	9,301人	10,873人	6,300人	うち入院患者数	925人	1,021人	740人	NICU・GCU入院患者数	2,923人	3,205人	3,800人	分娩件数	252件	305件	370人	うち帝王切開数	119件	119件	170人	ハイリスク妊娠患者数	97人
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																																					
小児外来患者数	23,444人	29,258人	21,000人																																					
小児入院患者数	11,851人	13,858人	14,300人																																					
小児救急患者数	9,301人	10,873人	6,300人																																					
うち入院患者数	925人	1,021人	740人																																					
NICU・GCU入院患者数	2,923人	3,205人	3,800人																																					
分娩件数	252件	305件	370人																																					
うち帝王切開数	119件	119件	170人																																					
ハイリスク妊娠患者数	97人	86人	前年度並みを維持																																					
ハイリスク分娩患者数	84人	68人	前年度並みを維持																																					

(3) 災害時対応及び緊急時における医療支援

① 平時からの備えと発災後対応

災害時における病院機能の損失をできるだけ少なくし、機能の立ち上げや早急な回復を目指せるよう、平時より備えておくこと。また、発災後においては、入院患者の安全確保及び被災者の診療に努めること。

(3)	(3) 災害時対応及び緊急時における医療支援 ① 災害時における病院機能の維持・復旧のため、那覇市立病院事業継続計画（BCP）に基づき、院内での訓練実施や研修会を実施するほか、那覇市や沖縄県が実施する災害訓練に参加し、平時から災害に備えるよう努める。 また、発災時においては、入院患者の安全確保を図るとともに、発災後は被災者の診療にあたるよう努める。	(3) 同左 ① 同左 災害時における病院機能の維持・復旧のため、那覇市立病院事業継続計画（以下、BCP）に基づき、院内での訓練実施や研修会を実施する。	施設の災害対策について 病院施設の被災に的確に対応するため、災害対策マニュアルを検証する。また防災・防火訓練を定期的に実施する。	令和6年1月に、院内BCPの検証及び災害時の本部運営の向上を目的とした院内災害対策訓練を実施した。沖縄県南部スラブ内地震の発生を想定し、災害対策本部の立ち上げから運営を通して、想定から発生するあらゆる事象に対応する訓練だった。 また、上記の院内訓練と並行する本訓練として、九州沖縄ブロックDMAT実働訓練が沖縄県で開催された。当院のDMATが参加し、県外のDMATも受け入れ、院内の入院患者を搬出する訓練を行った。	ウエト 2 評価 III		
-----	---	--	---	--	-----------------------	--	--

① 他医療機関との連携

不測の事態への備えとして、患者移送等について、他医療機関との連携、ネットワークづくりに取り組むこと。

(4)	② 現病院施設は耐震性に課題を抱えていることから、不測の事態への備えとして、BCPに基づき、患者移送先の調整や搬送手段の確保等について、他医療機関との連携、ネットワークづくりに努める。	② 那覇市や沖縄県が実施する災害訓練に参加し、平時から災害に備え、不測の事態への備えとして、BCPに基づき、患者移送先の調整や搬送手段の確保等について、他医療機関との連携、ネットワークづくりに努める。		前述の院内災害対策訓練の実施及び（沖縄県が実施する）九州沖縄ブロックDMAT実働訓練への参加を通して、沖縄県・那覇市の災害対策本部やDMAT活動拠点本部である沖縄赤十字病院と連携を行った。 その他、DMATが下記の災害訓練に参加した。 ・政府主催の大規模地震時医療活動訓練（令和5年9月） ・沖縄県主催の県総合防災訓練（令和5年11月） ・那覇空港事務所主催の那覇空港訓練（令和6年2月） 参加要請のあった訓練にはすべて参加した。  (災害医療の関連指標) <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害訓練回数</td><td>0件</td><td>5件</td><td>7件</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	災害訓練回数	0件	5件	7件	ウエト 2 評価 III		
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標												
災害訓練回数	0件	5件	7件												

				<table border="1"> <tr> <td>災害訓練参加者数</td><td>0名</td><td>62名</td><td>35名</td></tr> </table>	災害訓練参加者数	0名	62名	35名			
災害訓練参加者数	0名	62名	35名								

② 医療支援への取り組み

大規模災害時や緊急時において、DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣する等、医療救護活動の支援に努めること。

(5)	<p>③大規模災害時や緊急時において、DMA T（災害派遣医療チーム）を派遣する等、医療救護活動の支援に努めること。</p> <p>③他の自治体における大規模災害時や緊急時において、市立病院 DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣し医療支援を実施する。</p> <p>また、DMAT を定期的に訓練研修に参加させるなど、医療救護支援活動の向上に努める</p>		<p>令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震での被災地支援活動として、現地へ沖縄 JMAT の一員として DMAT 隊員を災害派遣した。志賀町を活動エリアとして、医師 2 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名の 6 名（2 隊編成）で沖縄 JMAT 第 4 陣（1 月 16 日～1 月 21 日まで）として活動を行った。</p> <p>今後、地域災害拠点病院の機能を担うことを想定し、院内災害訓練を令和 6 年 1 月に実施した。災害発生時における本部機能の立ちあげ、運営訓練を実施した。また院内災害訓練と並行して、九州沖縄ブロック DMAT 実働訓練が沖縄県で開催され、当院は病院避難のミッションが割り当てられた。電気や水道が利用できない状況の中、県外 DMAT を受け入れ、院内の入院患者を搬出するシナリオにて訓練を実施した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和 4 年度実績</th><th>令和 5 年度実績</th><th>令和 5 年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害研修会回数</td><td>5 回</td><td>3 回</td><td>7 回</td></tr> <tr> <td>災害研修会参加者数</td><td>8 名</td><td>3 名</td><td>11 名</td></tr> <tr> <td>被災地等への派遣件数</td><td>1 件</td><td>1 件</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 5 年度目標	災害研修会回数	5 回	3 回	7 回	災害研修会参加者数	8 名	3 名	11 名	被災地等への派遣件数	1 件	1 件	—	エイト 2 評価 III		
指標名	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 5 年度目標																				
災害研修会回数	5 回	3 回	7 回																				
災害研修会参加者数	8 名	3 名	11 名																				
被災地等への派遣件数	1 件	1 件	—																				

④ 保健所との連携

那覇市保健所と連携し、新型インフルエンザ等の感染症対策に協力すること。

(6)	(4) 保健所との連携 那覇市保健所と連携し、新型インフルエンザ等の感染症対策に協力する。	(4) 同左		<p>コロナ5類感染症移行後も、保健所への院内感染の発生報告を継続した。また、感染対策向上加算連携合同会議の開催時にも情報提供を行うことで、関連施設の運用整備に協力することができた。</p> <p>結核発生時等には保健所の要請に応じて情報を提供し、公衆衛生・再感染予防に協力することができた。</p> <p>感染症の警報・注意報が発令されている時期、または連休前には、那覇市感染症週報を活用して、全部署への注意喚起を実施した。</p>	ウエト 2 評価 IV		
-----	--	--------	--	---	----------------------	--	--

#### (5) 市の施策との連携

##### ①保健・福祉行政との連携

疾病や介護の予防、健康づくりを推進するため、市や関係機関と連携・協力して疾病予防対策等に協力すること。

(7)	(5) 市の施策との連携 ①保健・福祉行政との連携  疾病や介護の予防、健康づくりを推進するため、慢性腎臓病(CKD)に対するフォローアップ、CKDの啓発活動、CKDサポート外来の推進や患者教育のための教育入院、特定健診の休日実施等、那覇市や関係機関と連携し疾病予防対策等に協力する。	(5) 同左 ①同左		<p>CKDサポート外来と連携し、患者家族の経済的不安や心理的不安に対して早めの介入に努めた。社会資源等の情報提供として使用している患者向けの「透析医療を受けている方の福祉のしおり」を改訂した。</p> <p>健診センターにおける疾病予防対策関連について、那覇市をはじめとする各市町村、全国健康保険協会、各共済組合、健康保険組合等と連携し、健診事業を実施した。各指標における実績について、令和4年度と比較して総受入件数を50件/日から55件/日まで増加させ、それに伴い人間ドック件数、健康診断件数が増加した。特定健診件数、がん検診件数は減少に転じているが、それぞれ単独の受診から人間ドックや一般健診等との併用受診が増加したためと考えられる。</p> <p>特定保健指導については、従来の運用フローの見直しを行い、効率的な保健指導の実施に努めた。担当者が対象者1人1人に対し積極的に情報提供を行い、当初の目標値を大きく上回る結果となった。</p> <p>(疾病予防対策の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定健診件数</td><td>1,707件</td><td>1,614件</td><td>2,600件</td></tr> <tr> <td>特定保健指導件数</td><td>585件</td><td>805件</td><td>500件</td></tr> <tr> <td>がん検診件数</td><td>364件</td><td>256件</td><td>500件</td></tr> <tr> <td>人間ドック件数</td><td>4,410件</td><td>5,029件</td><td>4,700件</td></tr> <tr> <td>健康診断件数</td><td>4,571件</td><td>4,946件</td><td>4,100件</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	特定健診件数	1,707件	1,614件	2,600件	特定保健指導件数	585件	805件	500件	がん検診件数	364件	256件	500件	人間ドック件数	4,410件	5,029件	4,700件	健康診断件数	4,571件	4,946件	4,100件	ウエト 1 評価 IV		
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																												
特定健診件数	1,707件	1,614件	2,600件																												
特定保健指導件数	585件	805件	500件																												
がん検診件数	364件	256件	500件																												
人間ドック件数	4,410件	5,029件	4,700件																												
健康診断件数	4,571件	4,946件	4,100件																												

##### ②地域包括ケアシステムの推進

入院患者が円滑に在宅医療へ移行できるための退院支援の強化を行う等、本市地域包括ケアシステムの構築に協力すること。																											
(8)	②地域包括ケアシステムの推進  在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、介護施設、ケアマネージャー、社会福祉士等と連携し、入院患者がスムーズに在宅医療へ移行できるよう退院支援の強化、適切な情報提供や急変時の受入体制を整備する。	②在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、介護施設、ケアマネージャー、社会福祉士等を支援し、入院患者がスムーズに在宅医療へ移行できるよう退院支援の強化、適切な情報提供、急変時の受け入れ体制を強化する。	入退院支援センター、地域医療連携室、総合相談センターを一元化し、入退院患者情報の把握、退院支援へ早期着手、円滑なベッドコントロールを合理的に行う。	<p>患者サポートセンターは、地域医療連携室・入退院支援室・がん診療連携室・がん相談支援センター・医療福祉相談室・国際医療支援室の6部署を統合・一元化して運営している。地域完結型医療へのつなぎとしての当院のあるべき姿に、当部署の関わりが深くなっている。退院調整実施件数（入退院支援加算の算定件数）は9,558件と令和4年度の8,079件と比較し1,479件増加している。各病棟・部署の退院前後カンファレンスや自宅訪問が増加し、多職種連携で実施することができた成果であると思われる。訪問看護指示書件数は301件と、令和4年度並みを維持できた。</p> <p>さらに、当部署では、師長研修教育プログラムに退院支援研修と訪問看護実習を導入している。患者家族の意思決定を尊重した入退院支援プロセスを提供できる院内体制の確立が当部署の使命である。今後も院内外のシームレスな多職種連携で、安心して住み慣れた地域へ帰る事が出来るように注力していきたい。</p> <p style="text-align: center;">(在宅医療の関連指標)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度 実績</th><th>令和5年度 実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整実施件数</td><td>8,079件</td><td>9,558件</td><td>前年度並みを維持</td></tr> <tr> <td>訪問看護指示書件数</td><td>300件</td><td>301件</td><td>前年度並みを維持</td></tr> <tr> <td>介護保険主治医意見書件数</td><td>474件</td><td>498件</td><td>前年度並みを維持</td></tr> <tr> <td>在宅療養支援診療所への紹介件数</td><td>874件</td><td>1,144件</td><td>前年度並みを維持</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和5年度目標	退院調整実施件数	8,079件	9,558件	前年度並みを維持	訪問看護指示書件数	300件	301件	前年度並みを維持	介護保険主治医意見書件数	474件	498件	前年度並みを維持	在宅療養支援診療所への紹介件数	874件	1,144件	前年度並みを維持	交付 1 評価 IV		
指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和5年度目標																								
退院調整実施件数	8,079件	9,558件	前年度並みを維持																								
訪問看護指示書件数	300件	301件	前年度並みを維持																								
介護保険主治医意見書件数	474件	498件	前年度並みを維持																								
在宅療養支援診療所への紹介件数	874件	1,144件	前年度並みを維持																								
(6) 市民への情報の提供・発信  市民に対し、病院の診療機能・運営状況についての情報提供・発信に努めるとともに、医療に関する知識の普及啓発を推進すること。																											
(9)	(6)市民に対し、市立病院の診療機能・運営状況についての情報提供・発信に努めるとともに、医療に関する正しい知識の普及啓発を推進する。情報発信の手段として、当院の院外ホームページ、広報誌等を活用し、診療実績や医療情報を提供する。	(6)同左	ホームページの更新  市民公開講座  病院情報の公表	<p>院外ホームページでは、診療に関する情報（休診・代診情報や診療制限等）や地域がん診療連携拠点病院としての市民向けサロンに関する案内など、情報を発信した。また、当院の特徴や急性期病院の現状を理解していただくことを目的に、厚労省の定めている定義と形式に基づき病院指標を作成し公開した。</p> <p>那覇市役所にて市民講座を開催するため計画・調整を行ったが、市役所側から対応困難との返答があり開催には至っていない。今後は、別の会場での開催も検討していきたい。</p> <p>厚生労働省が推奨している「病院情報の公表」は、診療情報の提供や活用等、診療の透明化や改善の努力を評価する趣旨で平成29年度より行われている。厚生労働省の指定する項目について、当院の診療に関する情報を公開することにより、患者や地域住民が当院の診療内容や特長等の情報を自主的に得られるよ</p>	交付 1 評価 III																						

			広報誌発行	<p>う、ホームページにて情報を提供している。「病院情報の公表」は毎年10月に更新を行うこととなっているため、継続して掲載を行った。</p> <p>広報誌については、令和5年10月及び令和6年2月に発行した。診療科特集ではそれぞれ放射線治療科、循環器内科を掲載、また新病院建設に関する内容や院内情報について掲載し発行した。</p> <p>また、令和5年9月に紹介受診重点医療機関へ指定された際は連携クリニック及び患者向けに病院概要パンフレットを作成し情報発信を行った。</p>		
--	--	--	-------	--	--	--

様式1－1－4－2 年度評価 項目別評定調書（第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 診療機能の充実）

1. 当項目に関する情報					
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 診療機能の充実					
業務に関連する政策・施策	(1) 高度医療の充実 ①専門性を持った医療人の確保 ②医療機器の計画的な更新・整備 (2) がん医療の充実 ①地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実 (3) 地域医療機関との連携推進・強化 ①地域医療機関との連携推進・強化 (4) 人材の確保及び育成 ①医療水準の維持・向上のための専門性向上及び人材確保と育成 (5) 安全安心で質の高い医療の提供 ①患者中心の医療 ②医療安全対策の徹底 ③医療の標準化と最適な医療の提供 ④法令の遵守及び行動規範に沿った業務運営	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—	—	—
当該項目の重要度、難易度	ウェイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	—	—	—

2. 主要な経年データ

	①主要なアウトプット（アウトカム）情報							②主要なインプット情報				
	指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
手術ナビ ゲーションシス テ	耳鼻咽喉科		4件	6件	3件	7件	6件		—	—	—	—
	脳神経外科		11件	3件	8件	10件	9件		—	—	—	—
	整形外科		25件	25件	12件	19件	22件		—	—	—	—

ム実施件数	眼科		—	—	—	1 件	4 件				
	外科		—	—	—	—	8 件				
レーザー破碎装置を用いた施設実績件数			37 件	25 件	22 件	42 件	34 件				
高度医療の関連指標	CT 件数		17,812 件	15,614 件	14,837 件	15,328 件	17,291 件				
	MRI 件数		7,503 件	6,363 件	6,409 件	6,746 件	6,804 件				
	RI 件数		804 件	687 件	828 件	804 件	698 件				
	心臓カテーテル検査件数		452 件	311 件	258 件	248 件	291 件				
	経皮的冠動脈形成術 (PCI) 件数		202 件	120 件	101 件	92 件	114 件				
	アプローチ治療件数		158 件	126 件	107 件	115 件	141 件				
	脳血管造影件数		274 件	153 件	113 件	115 件	112 件				
	血管内治療件数		109 件	91 件	62 件	61 件	60 件				
	血栓溶解療法 (t-PA) 治療件数		5 件	3 件	8 件	4 件	6 件				
	手術件数(手術室)		3,561 件	3,078 件	2,839 件	3,324 件	4,069 件				
	うち全身麻酔手術件数		2,102 件	1,890 件	1,611 件	2,134 件	2,468 件				
	うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術件数 (※1ポリペクは除く)		601 件	508 件	429 件	523 件	590 件				
	内視鏡による手術件数 (ESD*2ESD : 内視鏡的粘膜下層剥離術)		75 件	86 件	93 件	106 件	82 件				
がん診療連携パス実績	胃がん		0 件	3 件	2 件	6 件	3 件				
	大腸がん		3 件	11 件	14 件	22 件	11 件				
	乳がん		39 件	42 件	75 件	60 件	37 件				
	肺がん		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件				
	肝がん		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件				
	前立腺がん		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件				
	合 計		42 件	56 件	91 件	88 件	51 件				
がん医療の関連指標がん医療の関連指標	全がん退院患者数		1,622 人	1,612 人	1,371 人	1,500 人	1,532 人				
	うち5大がん退院患者数		731 人	736 人	633 人	646 人	595 人				
	がん患者外来化学療法患者数		2,664 人	2,944 人	2,906 人	3,247 人	3,273 人				
	がん放射線治療実患者数		296 人	266 人	223 人	276 人	260 人				

がん患者相談件数		1,479人	1,670人	1,322人	1,214人	1,020人		—	—	—	—
	全国がん登録件数	952件	1,060件	1,038件	883件	976件		—	—	—	—
	がん診療連携パス適用数	41件	56件	91件	88件	51件		—	—	—	—
	がん研修会等開催数(医療者)	4回 (103人)	4回 (85人)	7回 (322人)	8回 (158人)	6回 (218人)		—	—	—	—
	がん講演会等開催数(市民対象)	12回 (194人)	0回 (0人)	0回 (0人)	6回 (83人)	7回 (93人)		—	—	—	—
	紹介率	65%	77.0%	78.4%	80.6%	70.2%	81.4%		—	—	—
地域医療連携の関連指標	逆紹介率	40%	84.6%	99.7%	93.6%	82.2%	82.2%		—	—	—
	地域連携パス適用数(大腿骨頸部骨折)	バス発行件数 127件	バス発行件数 126件	バス発行件数 154件	バス発行件数 146件	バス発行件数 146件		—	—	—	—
	地域連携パス適用数(脳卒中)	バス発行件数 410件	バス発行件数 351件	バス発行件数 142件	バス発行件数 105件	バス発行件数 156件		—	—	—	—
	開放病床利用率(5床)	在院患者数 2,555人	2,370人	2,367人	2,623人	2,696人		—	—	—	—
専門性及び医療技術の向上の関連指標	初期研修医数	20名	13名	15名	16名	15名		—	—	—	—
	専攻医(後期研修医)数	11名	16名	15名	22名	35名		—	—	—	—
	派遣研修人数(県内)	初:7名 後:0名	初:13名 後:0名	初:13名 後:5名	初:30名 専:4名	初:14名 専:9名		—	—	—	—
	派遣研修人数(県外)	初:5名 後:0名	初:1名 後:0名	初:0名 後:0名	初:2名 専:0名	初:0名 専:0名		—	—	—	—
	学会発表数(医師)	77件	40件	45件	50件	66件		—	—	—	—
	学会発表数(看護師)	20件	6件	4件	13件	9件		—	—	—	—
	学会発表数(その他) <sup>デイカルタツフ</sup>	29件	13件	22件	44件	18件		—	—	—	—
	論文発表数(全体)	51件	37件	33件	16件	77件		—	—	—	—
	専門資格取得者数(新規)	3名	1名	19名	31名	37名		—	—	—	—
	事務スタッフの専門性の向上の関連指標	病院経営研修等への受講回数(合計)	84回	18回	17回	10回	3回				
事務職員勉強会等	事務職員勉強会等	3回	6回	11回	0回	3回					
	外部講師による講演指導等	5回	1回	0回	2回	2回					
	オンラインセミナー	2回	27回	29回	28回	21回					

	専門資格取得者数 (新規)		9名	1名	4名	3名	6名					
医療安全・院内感染対策の関連指標	医療安全対策委員会等開催数		12回	12回	12回	12回	12回		—	—	—	—
	医療安全研修等実施回数		10回	5回	2回	2回	8回		—	—	—	—
	インシデントレポート報告件数		1,592件	1,602件	1,458件	1,496件	1,977件		—	—	—	—
	アクシデントレポート報告件数		40件	24件	22件	43件	25件		—	—	—	—
	院内感染対策委員会等開催数		12回	4回	4回	10回	12回		—	—	—	—
	感染管理チームミーティング回数		48回	32回	30回	24回	55回		—	—	—	—
	院内感染対策研修会等開催数		26回 (899名)	9回 (500名)	8回 (2,847名)	10回 (1,164名)	13回 (2,273名)		—	—	—	—
患者中心の医療の実践の関連指標	セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)		21件	13件	7件	11件	13件		—	—	—	—
	セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)		29件	39件	19件	30件	39件		—	—	—	—
医療の標準化と最適な医療の提供の関連指標	クリニックパス適用患者数		5,235人	5,354人	5,745人	6,057人	7,909件		—	—	—	—
	クリニックパス種類数		217(累計)	294(累計)	326(累計)	312(累計)	319(累計)		—	—	—	—
コンプライアンスの関連指標	研修会開催数		0回	0回	0回	0回	3回		—	—	—	—
	参加者数		0名	0名	0名	0名	470名		—	—	—	—

### 3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価

	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価				評議委員会意見	市長による小項目評価								
				業務実績			自己評価										
2 診療機能の充実																	
(1)高度医療の充実																	
①専門性を持った医療人の確保 高度医療の充実を図るため、専門性を持った医療スタッフの確保に努めること。																	

(10)	2 診療機能の充実 (1)高度医療の充実 ①専門性を持った医療人の確保 高度医療の充実を図るため、医師をはじめ、専門性を持った医療スタッフの確保に努める。	2 同左 (1)同左 ①同左	高度医療機器を用いた使用件数について	<p>令和5年度よりコロナの影響も少なくなり、高度医療の関連指標項目は、一部を除き令和4年度より件数が増加した。目標には届かなかった項目もあるが、手術件数は大幅に増加し、急性期病院としてあるべき体制に戻りつつある。</p> <p>(高度医療の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT 件数</td><td>15,328 件</td><td>17,291 件</td><td>17,900 件</td></tr> <tr> <td>MRI 件数</td><td>6,746 件</td><td>6,804 件</td><td>7,500 件</td></tr> <tr> <td>RI 件数</td><td>804 件</td><td>698 件</td><td>830 件</td></tr> <tr> <td>心臓カテーテル検査件数</td><td>248 件</td><td>291 件</td><td>450 件</td></tr> <tr> <td>経皮的冠動脈形成術 (PCI) 件数</td><td>92 件</td><td>114 件</td><td>200 件</td></tr> <tr> <td>アブレーション治療件数</td><td>115 件</td><td>141 件</td><td>160 件</td></tr> <tr> <td>脳血管造影件数</td><td>115 件</td><td>112 件</td><td>270 件</td></tr> <tr> <td>血管内治療件数</td><td>61 件</td><td>60 件</td><td>110 件</td></tr> <tr> <td>血栓溶解療法 (t-PA) 治療件数</td><td>4 件</td><td>6 件</td><td>5 件</td></tr> <tr> <td>手術件数 (手術室)</td><td>3,324 件</td><td>4,069 件</td><td>3,600 件</td></tr> <tr> <td>うち全身麻酔手術件数</td><td>2,134 件</td><td>2,468 件</td><td>2,100 件</td></tr> <tr> <td>うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術</td><td>523 件</td><td>590 件</td><td>600 件</td></tr> <tr> <td>内視鏡による手術件数 (*ESD)</td><td>106 件</td><td>82 件</td><td>95 件</td></tr> </tbody> </table> <p>※ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術</p>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	CT 件数	15,328 件	17,291 件	17,900 件	MRI 件数	6,746 件	6,804 件	7,500 件	RI 件数	804 件	698 件	830 件	心臓カテーテル検査件数	248 件	291 件	450 件	経皮的冠動脈形成術 (PCI) 件数	92 件	114 件	200 件	アブレーション治療件数	115 件	141 件	160 件	脳血管造影件数	115 件	112 件	270 件	血管内治療件数	61 件	60 件	110 件	血栓溶解療法 (t-PA) 治療件数	4 件	6 件	5 件	手術件数 (手術室)	3,324 件	4,069 件	3,600 件	うち全身麻酔手術件数	2,134 件	2,468 件	2,100 件	うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術	523 件	590 件	600 件	内視鏡による手術件数 (*ESD)	106 件	82 件	95 件	カット 2 評価 III	
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																																																											
CT 件数	15,328 件	17,291 件	17,900 件																																																											
MRI 件数	6,746 件	6,804 件	7,500 件																																																											
RI 件数	804 件	698 件	830 件																																																											
心臓カテーテル検査件数	248 件	291 件	450 件																																																											
経皮的冠動脈形成術 (PCI) 件数	92 件	114 件	200 件																																																											
アブレーション治療件数	115 件	141 件	160 件																																																											
脳血管造影件数	115 件	112 件	270 件																																																											
血管内治療件数	61 件	60 件	110 件																																																											
血栓溶解療法 (t-PA) 治療件数	4 件	6 件	5 件																																																											
手術件数 (手術室)	3,324 件	4,069 件	3,600 件																																																											
うち全身麻酔手術件数	2,134 件	2,468 件	2,100 件																																																											
うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術	523 件	590 件	600 件																																																											
内視鏡による手術件数 (*ESD)	106 件	82 件	95 件																																																											

#### ① 医療機器等の計画的な更新・整備

市立病院に求められる医療を持续的に提供できるよう、必要な医療機器等を計画的に更新・整備すること。

(11)	②医療機器等の計画的な更新・整備 医療機器の整備・更新については、費用対効果、地域の医療機関との連携、がん治療に対する放射線療法等、医療需要及び医療技術の進展等	②同左	主な更新機器	<p>磁気共鳴画像診断装置、医療情報システム（電子カルテ）、マンモグラフィーシステム、白内障手術装置、眼科用手術顕微鏡、心臓用超音波診断装置、臨床用ポリグラフ等 計 111 件</p> <p>【うち運営費交付金を財源とした機器整備等】 患者搬送用救急車、車椅子仕様車、大型ディスプレイ 計 3 件</p> <p>【うち補助金等を財源とした機器整備等】 非磁性体輸液ポンプ 計 1 件</p> <p>【うち寄付による機器整備等】 超低温フリーザー 計 1 件</p>	カット 1 評価 III	
------	---	-----	--------	--	-----------------------	--

	から総合的に判断し、市立病院に求められる役割を持続的に提供できるよう、計画的に更新・整備する。		電子カルテシステム及び各部門システムの更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>新病院の開院に向けた計画的な更新及び整備を行った。</li> <li>耐用年数の超過や機器等の老朽化に対し、臨床現場へ支障を来すことなく整備・更新を行った。</li> <li>手術件数の増加や新たな手術へ対応するため、新規に形成外科用機器及び内視鏡手術用機器を遅滞なく導入する事ができた。</li> </ul> <p>電子カルテ及び部門システムについて、業者の選定、導入に伴うワーキンググループの立ち上げ、開発に向けてのヒアリングを実施した。運用を取り決め、システム要求の取込、マスタの作成、インフラの構築を行い、システムを更新した。</p>		
--	---	--	-----------------------	--	--	--

## (2) がん医療の充実

専門的ながん医療の提供、がん医療の地域連携協力体制の構築、がん患者やその家族に対する相談支援、情報提供等を行う地域がん診療連携拠点病院として、がん医療の充実に努めること。

(12)	(2)がん医療の充実 専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者やその家族に対する相談支援、情報提供等を行う地域がん診療連携拠点病院として、がん医療の充実に努める。 また、がん診療連携パスの利用を促進、がん診療に従事する医師等に対する研修会開催、全国がん登録の推進、がん患者の就労支援の啓発、がんフォーラム等の講演会を継続して開催する。	(2)同左	がん医療	<p>外来化学療法患者数は3,273人で令和4年度と比較して26人増加し、放射線治療の実患者数は260人で令和4年度と比較して16名減少した。がん患者外来化学療法患者数の増加は、入院治療から外来治療へ移行しており、注射薬との併用や内服のみでの化学療法が増えていることが背景となっている。</p> <p>地域がん診療連携拠点病院の役割として、がん診療連携の促進が重要課題である。5大がんと前立腺がんのがん診療連携パスの適応件数は51件で、令和4年度と比較して37件減少した。主に乳がんのオープンシステム連携を行っている医療機関からの紹介が減少している。要因追査のため、今後連携医療機関との意見交換を行っていきたい。</p> <p>(がん医療の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全がん退院患者数</td><td>1,500人</td><td>1,532人</td><td>1,600人</td></tr> <tr> <td>うち5大がん退院患者数</td><td>646人</td><td>595人</td><td>740人</td></tr> <tr> <td>がん患者外来化学療法患者数</td><td>3,247人</td><td>3,273人</td><td>3,000人</td></tr> <tr> <td>がん放射線治療実患者数</td><td>276人</td><td>260人</td><td>300人</td></tr> <tr> <td>がん患者相談件数</td><td>1,214件</td><td>1,020件</td><td>1,700件</td></tr> <tr> <td>全国がん登録件数</td><td>883件</td><td>976件</td><td>1,060件</td></tr> <tr> <td>がん地域連携パス適用件数</td><td>88件</td><td>51件</td><td>95件</td></tr> <tr> <td>がん研修会等開催数(医療者)</td><td>8回(158人)</td><td>6回(218人)</td><td>7回</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	全がん退院患者数	1,500人	1,532人	1,600人	うち5大がん退院患者数	646人	595人	740人	がん患者外来化学療法患者数	3,247人	3,273人	3,000人	がん放射線治療実患者数	276人	260人	300人	がん患者相談件数	1,214件	1,020件	1,700件	全国がん登録件数	883件	976件	1,060件	がん地域連携パス適用件数	88件	51件	95件	がん研修会等開催数(医療者)	8回(158人)	6回(218人)	7回	カエバ 2 評価 III	
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																																							
全がん退院患者数	1,500人	1,532人	1,600人																																							
うち5大がん退院患者数	646人	595人	740人																																							
がん患者外来化学療法患者数	3,247人	3,273人	3,000人																																							
がん放射線治療実患者数	276人	260人	300人																																							
がん患者相談件数	1,214件	1,020件	1,700件																																							
全国がん登録件数	883件	976件	1,060件																																							
がん地域連携パス適用件数	88件	51件	95件																																							
がん研修会等開催数(医療者)	8回(158人)	6回(218人)	7回																																							

			がん講演会等開催数(市民対象)	6回(83人)	7回(93人)	7回		
(がん診療連携パス実績)								
				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			胃がん	0件	3件	2件	6件	3件
			大腸がん	3件	11件	14件	22件	11件
			乳がん	39件	42件	75件	60件	37件
			肺がん	0件	0件	0件	0件	0件
			肝がん	0件	0件	0件	0件	0件
			前立腺がん	0件	0件	0件	0件	0件
			合 計	42件	56件	91件	88件	51件
		医療者向け研修会	<p>主に次のような研修を行った。①エンドオブライフの意思決定を支えるコンパッションのある対話②がん相談員実務者研修会③がんと就労④薬剤師教育セミナー⑤がん診療と形成外科の関わり⑥がん診療に携わる医師、研修医、県内のホスピス、緩和ケア病棟のがん専門看護師・社会福祉士を中心に緩和ケア研修会を開催した。</p> <p>市民や患者向けの研修会等は、感染対策を講じながら開催できた。患者サロンは令和4年度よりも1回多く開催できた。</p> <p>① がんフォーラム「アピアランスケア」 1回開催 (市民)      ② 患者サロン 6回開催 (がん患者・家族対象)</p> <p>診療情報管理室では、例年通りがん登録の専従職員を中心に登録内容のダブルチェックを行い入院及び外来症例の登録を行った。全国がん登録への報告も実施した。令和5年度の新規がん登録件数は976件であり、令和4年度より93件、増加した。がん登録実務に関わる知識・技術の向上を目的に、国立がん研究センター主催の院内がん登録実務中級認定者研修(e-learning形式)においては職員4名が受講した。</p>					
		市民・患者向け研修会						

### (3) 地域医療機関との連携推進・強化

地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、地域医療支援病院として、地域の医療機関との更なる連携の推進・強化を図ること。

(13)	(3) 地域医療機関との連携推進・強化  地域で完結する切れ目のない医療	(3) 同左	地域からの紹介患者を断らない受け入れ体制を強化し地域における急性期病院と	令和5年度においては、地域医療支援病院運営委員会を2回開催し当院の業務実績報告と状況報告を地域の各機関・地域の代表に報告を行うと共に、当院に対するご意見をいただくことができた。  また、令和5年度も地域医療連携交流会を開催した。「急性期病院と在宅の連携」をテーマに、那覇市医師会、在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問診療所等	ウエト 2 評価 III		
------	--	--------	--------------------------------------	---	-----------------------	--	--

<p>を提供するため、地域医療支援病院として、地域の医療機関との更なる連携の推進・強化を図り、紹介率及び逆紹介率の向上に努める。</p>	<p>しての役割を継続する。</p>	<p>の連携機関に講演していただいた他、地域医療機関235名の参加者と交流し意見交換を行った。</p> <p>令和5年9月1日に紹介受診重点医療機関に認定され、地域の医療機関からの紹介患者を受け入れ、急性期治療の終了した患者を逆紹介するという病院の方針を病院全体として再確認した。紹介受診重点医療機関として定期受診の患者を地域医療機関へ案内するよう各診療科と共に取り組んだ。紹介率は令和4年度を大きく上回り、逆紹介率は令和4年度並みとなった。</p> <p>登録医が利用できる開放病床5床を確保し、当院医師と共同で治療できる体制を整備している。開放病床利用率は147.3%であった。</p> <p>栄養科においても、加算にかかわらず、疾患の合併症や重症化リスク軽減を目的として、転院先や在宅医療などの療養先に入院中や退院時の栄養に関する情報提供書を提供している。</p> <p>地域の医療機関との関わりについては、適宜話し合いの場を設定し、連携できる体制作りに努めている。また地区の医師会議にも定期的に参加し、情報交換・連携推進を行っている。理事長においては、那覇市医師会理事としてその任にあたっている。令和5年3月末時点で53名が那覇市医師会員である。</p>			
--	--------------------	---	--	--	--

#### (4) 人材の確保及び育成

提供する医療水準の維持・向上や病院経営の専門性を高めるため、必要な人材の確保及び育成に努めること。

<p>(14) (4) 人材の確保及び育成 提供する医療水準の維持・向上や病院経営の専門性</p>	<p>(4) 同左</p>	<p>医師の確保</p>	<p>令和5年度は、循環器医師1名を採用した。循環器医師は、令和4年度に相次いで2名が退職したため診療に影響が出ていたが、令和4年度に1名、令和5年度に1名を採用し、体制を維持できた。</p>	<p>カエト 1 評価 IV</p>		
---	---------------	--------------	--	--------------------------------	--	--

<p>を高めるため、必要な人材の確保及び育成に努める。救急医等の人材確保の手段として、琉球大学との連携、沖縄県医師会・那覇市医師会との連携、リクルート機関の活用を図る。</p>	<p>初期臨床研修医 専攻医 医師（初期研修医・専攻医）確保を含む実績</p>	<p>また、令和5年8月に肝胆膵を専門とする外科医師を採用した。前職では、手術支援ロボットでの手術実績も多く、当院でも令和6年度に手術支援ロボットを導入する事から、その経験が今後活かせると考えられる。</p> <p>令和5年度は県内外から合計57名の病院見学者の受入を行った。見学者へのアンケートや対話を通して研修に関する要望等の情報収集ができた。</p> <p><b>【主な活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院主催のWEB説明会（合計3回実施）</li> <li>・県外の採用イベント参加（合計4回出展）</li> <li>・沖縄県内での研修希望者へリクルートサイトを介して当院のアピールを行った。</li> <li>・民間医局レジナビを活用し、医学生の傾向調査、動向分析を行い、アピール方法を改善した。</li> </ul> <p>令和5年度は在籍医師（専攻医）から当院の魅力を発信できることにより、見学者が大幅に増加した。（令和4年度専攻希望による見学者2名 令和5年専攻希望による見学者10名）</p> <p><b>【主な活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、専攻医、研修医による積極的な働きかけにより令和4年度より病院見学者が増加した。</li> <li>・民間医局レジナビを活用し、研修医に人気の専攻希望診療科等の情報を収集し、人気のある診療科、専科など見学医、院外研修医へアピールを行った。</li> </ul> <p>令和5年度は、教育研究支援センターの開設に伴い、初期臨床研修医・専攻医の確保・教育に注力した。見学に訪れた研修医にも院外研修として来た研修医にも積極的にアピールした。その成果もあり、日本専門医機構の実施する専攻医採用スケジュール終了時には、新規内科専攻医3名を獲得できた。また、他医療機関に所属していた専攻医1名も当院での勤務希望の申し出があったことから、令和6年度採用予定内科専攻医は4名となった。</p> <p><b>【研修医在籍数及び派遣人数】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">令和4年度実績</th><th colspan="2">令和5年度実績</th></tr> <tr> <th>うち県外派遣</th><th>うち県内派遣</th><th>うち県外派遣</th><th>うち県内派遣</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">初期研修医</td><td>16名</td><td></td><td>15名</td><td></td></tr> <tr> <td>2名</td><td>30名</td><td>0名</td><td>14名</td></tr> <tr> <td rowspan="3">専攻医 ＊後期研修医 より名称変更</td><td>22名</td><td></td><td>35名</td><td></td></tr> <tr> <td>うち県外派遣</td><td>うち県内派遣</td><td>うち県外派遣</td><td>うち県内派遣</td></tr> <tr> <td>0名</td><td>4名</td><td>0名</td><td>9名</td></tr> </tbody> </table>		令和4年度実績		令和5年度実績		うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣	初期研修医	16名		15名		2名	30名	0名	14名	専攻医 ＊後期研修医 より名称変更	22名		35名		うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣	0名	4名	0名	9名		
	令和4年度実績			令和5年度実績																															
	うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣																															
初期研修医	16名		15名																																
	2名	30名	0名	14名																															
専攻医 ＊後期研修医 より名称変更	22名		35名																																
	うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣																															
	0名	4名	0名	9名																															

		学会・論文発表数	学会発表数については、医師は増加した一方、看護師・その他スタッフは減少となった。論文発表が大幅に増加した。																																																													
		看護師に関する実績	<p><b>【学会関連実績】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>令和4年度実績</th> <th>令和5年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学会発表数（医師）</td> <td>50件</td> <td>66件</td> </tr> <tr> <td>学会発表数（看護師）</td> <td>13件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>学会発表数（その他メディカルスタッフ）</td> <td>44件</td> <td>18件</td> </tr> <tr> <td>論文発表数（全体）</td> <td>16件</td> <td>77件</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナ禍の影響による離職の増加に伴う人員不足の解消、医師の働き方改革に連動した看護師の働く環境の整備、及び令和7年10月の新病院開院を見据えた人員体制の強化のため、看護師の積極採用を行った。</p> <p><b>【看護師正職員採用状況】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度実績</th> <th>令和4年度実績</th> <th>令和5年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新卒</td> <td>2名</td> <td>19名</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>経験者</td> <td>22名</td> <td>18名</td> <td>34名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>24名</td> <td>37名</td> <td>64名</td> </tr> </tbody> </table> <p>感染管理認定看護師1名と特定看護師（術中麻酔2名、創傷管理1名、集中治療領域1名、血糖管理1名）が資格取得した。RRS活動も整備され、医師のタスクシェアや医療・看護の質向上、患者の安全に貢献している。</p> <p>また、感染認定や特定行為研修への参加の他、管理者育成にも注力しており、認定看護管理者研修を3名が受講した。</p> <p><b>【専門看護師・認定看護師の在籍数】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>専門看護分野</th> <th>令和4年度実績</th> <th>令和5年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん看護</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>認定看護分野</th> <th>令和4年度実績</th> <th>令和5年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集中ケア</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>2名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>慢性心不全看護</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>皮膚・排泄ケア</td> <td>2名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>小児救急看護</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>がん化学療法</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	学会発表数（医師）	50件	66件	学会発表数（看護師）	13件	9件	学会発表数（その他メディカルスタッフ）	44件	18件	論文発表数（全体）	16件	77件	区分	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	新卒	2名	19名	30名	経験者	22名	18名	34名	合計	24名	37名	64名	専門看護分野	令和4年度実績	令和5年度実績	がん看護	3名	3名	合計	3名	3名	認定看護分野	令和4年度実績	令和5年度実績	集中ケア	3名	3名	感染管理	2名	3名	慢性心不全看護	1名	1名	皮膚・排泄ケア	2名	2名	小児救急看護	0名	0名	がん化学療法	0名	0名
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績																																																														
学会発表数（医師）	50件	66件																																																														
学会発表数（看護師）	13件	9件																																																														
学会発表数（その他メディカルスタッフ）	44件	18件																																																														
論文発表数（全体）	16件	77件																																																														
区分	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績																																																													
新卒	2名	19名	30名																																																													
経験者	22名	18名	34名																																																													
合計	24名	37名	64名																																																													
専門看護分野	令和4年度実績	令和5年度実績																																																														
がん看護	3名	3名																																																														
合計	3名	3名																																																														
認定看護分野	令和4年度実績	令和5年度実績																																																														
集中ケア	3名	3名																																																														
感染管理	2名	3名																																																														
慢性心不全看護	1名	1名																																																														
皮膚・排泄ケア	2名	2名																																																														
小児救急看護	0名	0名																																																														
がん化学療法	0名	0名																																																														

			<table border="1"> <tr><td>がん放射線療法看護</td><td>1名</td><td>1名</td></tr> <tr><td>摂食・嚥下障害看護</td><td>1名</td><td>1名</td></tr> <tr><td>脳卒中リハビリテーション看護</td><td>1名</td><td>1名</td></tr> <tr><td>糖尿病看護</td><td>1名</td><td>1名</td></tr> <tr><td>慢性呼吸器疾患看護</td><td>1名</td><td>0名</td></tr> <tr><td>新生児集中ケア</td><td>1名</td><td>1名</td></tr> <tr><td>緩和ケア認定看護師</td><td>3名</td><td>3名</td></tr> <tr><td>認知症看護認定看護師</td><td>2名</td><td>2名</td></tr> <tr><td>特定看護師</td><td>1名</td><td>7名</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>20名</td><td>26名</td></tr> </table>	がん放射線療法看護	1名	1名	摂食・嚥下障害看護	1名	1名	脳卒中リハビリテーション看護	1名	1名	糖尿病看護	1名	1名	慢性呼吸器疾患看護	1名	0名	新生児集中ケア	1名	1名	緩和ケア認定看護師	3名	3名	認知症看護認定看護師	2名	2名	特定看護師	1名	7名	合 計	20名	26名		
がん放射線療法看護	1名	1名																																	
摂食・嚥下障害看護	1名	1名																																	
脳卒中リハビリテーション看護	1名	1名																																	
糖尿病看護	1名	1名																																	
慢性呼吸器疾患看護	1名	0名																																	
新生児集中ケア	1名	1名																																	
緩和ケア認定看護師	3名	3名																																	
認知症看護認定看護師	2名	2名																																	
特定看護師	1名	7名																																	
合 計	20名	26名																																	
各部門における研修実績			各部門で専門性に応じた研修等を実施し、認定及び専門の資格取得を支援することができた。各部門の資格取得者数、研修実績は以下のとおりであった。																																
薬剤科に関する実績		<table border="1"> <thead> <tr><th>薬剤科</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得</td><td>小児薬物療法認定薬剤師1名</td><td>認定薬剤師1名、心不全療養指導士1名、スポーツファーマシスト4名、栄養サポートチーム1名</td></tr> <tr> <td>研修：参加</td><td>1件(オンライン1件)67名</td><td>1件(オンライン1件)43名</td></tr> </tbody> </table>	薬剤科	令和4年度実績	令和5年度実績	資格取得	小児薬物療法認定薬剤師1名	認定薬剤師1名、心不全療養指導士1名、スポーツファーマシスト4名、栄養サポートチーム1名	研修：参加	1件(オンライン1件)67名	1件(オンライン1件)43名																								
薬剤科	令和4年度実績	令和5年度実績																																	
資格取得	小児薬物療法認定薬剤師1名	認定薬剤師1名、心不全療養指導士1名、スポーツファーマシスト4名、栄養サポートチーム1名																																	
研修：参加	1件(オンライン1件)67名	1件(オンライン1件)43名																																	
放射線科に関する実績		<table border="1"> <thead> <tr><th>放射線科</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得</td><td>日本X線CT専門技師1名、第1種放射線取扱主任者1名、医療安全管理者1名</td><td>取得無し(更新のみ)</td></tr> <tr> <td>研修：参加</td><td>50件(オンライン49件)132名</td><td>54件(オンライン17件)344名</td></tr> </tbody> </table>	放射線科	令和4年度実績	令和5年度実績	資格取得	日本X線CT専門技師1名、第1種放射線取扱主任者1名、医療安全管理者1名	取得無し(更新のみ)	研修：参加	50件(オンライン49件)132名	54件(オンライン17件)344名																								
放射線科	令和4年度実績	令和5年度実績																																	
資格取得	日本X線CT専門技師1名、第1種放射線取扱主任者1名、医療安全管理者1名	取得無し(更新のみ)																																	
研修：参加	50件(オンライン49件)132名	54件(オンライン17件)344名																																	
CE科に関する実績		<table border="1"> <thead> <tr><th>CE科</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得</td><td>ITE心血管インターベンション技師1名</td><td>透析治療認定臨床工学技士1名、心電図検定1級1名、心電図検定2級2名、心電図検定3級1名</td></tr> <tr> <td>研修：参加</td><td>2件(すべてオンライン)2名</td><td>4件(オンライン2件)11名</td></tr> </tbody> </table>	CE科	令和4年度実績	令和5年度実績	資格取得	ITE心血管インターベンション技師1名	透析治療認定臨床工学技士1名、心電図検定1級1名、心電図検定2級2名、心電図検定3級1名	研修：参加	2件(すべてオンライン)2名	4件(オンライン2件)11名																								
CE科	令和4年度実績	令和5年度実績																																	
資格取得	ITE心血管インターベンション技師1名	透析治療認定臨床工学技士1名、心電図検定1級1名、心電図検定2級2名、心電図検定3級1名																																	
研修：参加	2件(すべてオンライン)2名	4件(オンライン2件)11名																																	
栄養科に関する実績		<table border="1"> <thead> <tr><th>栄養科</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th></tr> </thead> </table>	栄養科	令和4年度実績	令和5年度実績																														
栄養科	令和4年度実績	令和5年度実績																																	

			<table border="1"> <tr> <td>資格取得</td><td>日本栄養士会災害支援チーム スタッフ 2 名</td><td>病態栄養専門管理栄養士 3 名、食物アレルギー分野管 理栄養士 2 名、静脈経腸栄 養管理栄養士 1 名、人間ド ック健診情報管理栄養士 1 名</td><td></td><td></td></tr> </table>	資格取得	日本栄養士会災害支援チーム スタッフ 2 名	病態栄養専門管理栄養士 3 名、食物アレルギー分野管 理栄養士 2 名、静脈経腸栄 養管理栄養士 1 名、人間ド ック健診情報管理栄養士 1 名										
資格取得	日本栄養士会災害支援チーム スタッフ 2 名	病態栄養専門管理栄養士 3 名、食物アレルギー分野管 理栄養士 2 名、静脈経腸栄 養管理栄養士 1 名、人間ド ック健診情報管理栄養士 1 名														
		リハビリテー ション室に關す る実績	<table border="1"> <tr> <td>研修：参加</td><td>121 件(オンライン 108 件) 197 名</td><td>92 件(オンライン 6 件) 181 名</td><td></td><td></td></tr> </table>	研修：参加	121 件(オンライン 108 件) 197 名	92 件(オンライン 6 件) 181 名										
研修：参加	121 件(オンライン 108 件) 197 名	92 件(オンライン 6 件) 181 名														
		検査科に關す る実績	<table border="1"> <tr> <th>リハビリテーション室</th><th>令和 4 年度実績</th><th>令和 5 年度実績</th><th></th></tr> <tr> <td>資格取得</td><td>臨床実習指導者 2 名、公 認心理師 1 名、がんリハ ビリテーション研修(認 定療法士) 4 名、脳卒中 認定作業療法士 1 名</td><td>集中治療理学療法士 2 名、がんリハビリテーシ ョン認定療法士 4 名、臨 床実習指導士 2 名</td><td></td></tr> <tr> <td>研修：参加</td><td>23 件(オンライン 23 件) 85 名</td><td>19 件(オンライン 9 件) 212 名</td><td></td></tr> </table>	リハビリテーション室	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績		資格取得	臨床実習指導者 2 名、公 認心理師 1 名、がんリハ ビリテーション研修(認 定療法士) 4 名、脳卒中 認定作業療法士 1 名	集中治療理学療法士 2 名、がんリハビリテーシ ョン認定療法士 4 名、臨 床実習指導士 2 名		研修：参加	23 件(オンライン 23 件) 85 名	19 件(オンライン 9 件) 212 名		
リハビリテーション室	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績														
資格取得	臨床実習指導者 2 名、公 認心理師 1 名、がんリハ ビリテーション研修(認 定療法士) 4 名、脳卒中 認定作業療法士 1 名	集中治療理学療法士 2 名、がんリハビリテーシ ョン認定療法士 4 名、臨 床実習指導士 2 名														
研修：参加	23 件(オンライン 23 件) 85 名	19 件(オンライン 9 件) 212 名														
		事務職に關す る実績	<table border="1"> <tr> <th>検査科</th><th>令和 4 年度実績</th><th>令和 5 年度実績</th><th></th></tr> <tr> <td>資格取得</td><td>超音波検査技師(循環器・ 消化器領域) 各 1 名、イン フェクションコントロール ドクター (ICD) 1 名</td><td>細胞検査士 1 名、超音波検査 士(循環器領域) 1 名、超音 波検査士(消化器領域) 2 名</td><td></td></tr> <tr> <td>研修：参加</td><td>37 件 : 107 名</td><td>104 件(オンライン 15 件) 268 名</td><td></td></tr> </table>	検査科	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績		資格取得	超音波検査技師(循環器・ 消化器領域) 各 1 名、イン フェクションコントロール ドクター (ICD) 1 名	細胞検査士 1 名、超音波検査 士(循環器領域) 1 名、超音 波検査士(消化器領域) 2 名		研修：参加	37 件 : 107 名	104 件(オンライン 15 件) 268 名		
検査科	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績														
資格取得	超音波検査技師(循環器・ 消化器領域) 各 1 名、イン フェクションコントロール ドクター (ICD) 1 名	細胞検査士 1 名、超音波検査 士(循環器領域) 1 名、超音 波検査士(消化器領域) 2 名														
研修：参加	37 件 : 107 名	104 件(オンライン 15 件) 268 名														
			<p>令和 5 年度、病院事務局では病院未経験の 5 名を採用し、新人事務職員向けの教育に注力した。新たな試みとして、入職時オリエンテーション後に数日～1 週間単位で各部署での業務を経験させるジョブローテーション研修を導入した。これにより、新人職員は多種多様な業務のイメージができるようになり、各部署の職員とのネットワークを構築する中で、病院事務部門が担う役割の理解に役立つた。また、新人教育の一環として、院内 QC 大会で 5 名が発表する機会を得た。これらに加え、新人事務職を対象とした毎週勉強会を開催する等、新人教育に重点を置いて取り組んだ。</p> <p>令和 4 年度から新人職員に取得を義務づけた医療経営士 3 級については、令和 5 年度中に 4 名が資格を取得する事ができた。診療情報管理士は 2 名が合格した。また、国際医療支援室のコーディネーター 1 名が医療通訳技能検定試験(中国語 1 級)に合格した。継続して取得継続を支援したい。</p> <p>(事務スタッフの専門性の向上の関連指標)</p>													

			<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院経営研修等への受講回数</td><td>10回</td><td>3回</td></tr> <tr> <td>オンラインセミナーによる受講回数</td><td>31回</td><td>21回</td></tr> <tr> <td>外部講師による講演指導等</td><td>2回</td><td>2回</td></tr> <tr> <td>事務職員勉強会等</td><td>0回</td><td>3回</td></tr> <tr> <td>専門資格取得者数(新規)</td><td>5名</td><td>7名</td></tr> <tr> <td>学会発表(参加人数)</td><td>7件(7名)</td><td>6件(6名)</td></tr> </tbody> </table> <p>◎診療情報管理士 2名合格 ◎医療経営士3級 4名合格 ◎医療通訳技能検定試験（中国語1級） 1名合格</p> <p>今後の研修会への参加率向上のため、令和6年1月に、教育研究支援センターで新たに研修管理システムを導入した。職員が自身のスマートフォンやPCでアクセスし、時間と場所を選ばずに研修を受講出来るようにした。</p>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	病院経営研修等への受講回数	10回	3回	オンラインセミナーによる受講回数	31回	21回	外部講師による講演指導等	2回	2回	事務職員勉強会等	0回	3回	専門資格取得者数(新規)	5名	7名	学会発表(参加人数)	7件(7名)	6件(6名)		
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績																								
病院経営研修等への受講回数	10回	3回																								
オンラインセミナーによる受講回数	31回	21回																								
外部講師による講演指導等	2回	2回																								
事務職員勉強会等	0回	3回																								
専門資格取得者数(新規)	5名	7名																								
学会発表(参加人数)	7件(7名)	6件(6名)																								

#### (5) 安全安心で質の高い医療の提供

##### ①患者中心の医療

常に患者の視点に立ち、患者の権利を尊重し、患者中心の医療提供に努めること。また、セカンドオピニオンについても、円滑な対応に努めること。

(15)	(5) 安全安心で質の高い医療の提供 ①患者中心の医療 基本理念である「和と奉仕」に基づき、常に患者の視点に立ち、患者の権利を尊重し、患者中心の医療提供に努める。 また、セカンドオピニオンについても、引き続き円滑な対応に努める。	(5) 同左 ①同左	<p>当院ホームページにおいて、セカンドオピニオンの概要、対象者・受付方法・対象疾患・料金等の情報提供を行った。</p> <p>患者中心の医療提供を意識し、入院時より患者・家族の想いを傾聴している。入院3日以内の退院困難要因のスクリーニングも行っている。検査治療に関しては、理解しやすいように情報を提供した上で患者の意思決定を尊重していく様に取り組んでいる。院内の倫理委員会においても多職種で様々なケースを取り上げ、多角的な視点で患者を尊重しながら治療に取り組んでいる。</p> <p>(患者中心の医療の実践の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)</td><td>11件</td><td>13件</td><td>20件</td></tr> <tr> <td>セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)</td><td>30件</td><td>39件</td><td>40件</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)	11件	13件	20件	セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)	30件	39件	40件	カト 1 評価 III	
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標														
セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)	11件	13件	20件														
セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)	30件	39件	40件														

##### ② 医療安全対策の徹底

医療安全の確保を図るため、院内の感染症対策及び医療事故防止対策を徹底すること。

(16)	②医療安全対策委員会、院内感染対策委員会を定期的に開催し、インシデント・アクシデント報告や分析、対策について周知徹底する	②同左	医療安全対策 院内感染対策	<p>令和5年度のインシデントレポート報告件数は1,977件だった。目標としていた1,600件を越え大幅に報告件数が増加した。アクシデントレポート報告件数は令和5年度より18件少ない25件だった。</p> <p>レポート報告が多かった職種は看護師で1,758件(88.9%)だった。医師からの報告件数は39件(1.9%)と、令和4年度の43件から4件減少となった。</p> <p>インシデント報告数をやす取り組みとして、令和5年12月から、セーフマスターの報告システムと併用して、簡易版のインシデント報告システム（インシデントレベル2以下の報告専用）の運用を開始した。開始した翌月の1月から0レベルの報告件数が増加した。その他の効果として1または2レベルの事象を0レベルと間違えて報告する件数も減少した。</p> <p>医用安全対策委員会は毎月開催し、以下の議案を解決できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高難度新規医療医技術承認のフロー作成</li> <li>・患者転倒時のCT実施のマニュアル作成</li> <li>・RRTと協働し昇圧剤投与方法のマニュアル改訂</li> <li>・身体拘束に関するマニュアル改訂</li> <li>・医師の患者同意書サインに関する同席者のサインについて一部改訂</li> </ul> <p>(医療安全の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全対策委員会等開催数</td><td>12回</td><td>12回</td><td>前年度並み維持</td></tr> <tr> <td>医療安全研修等実施回数</td><td>2回</td><td>8回</td><td>10回</td></tr> <tr> <td>インシデントレポート報告件数</td><td>1,496件</td><td>1,977件</td><td>1,600件</td></tr> <tr> <td>アクシデントレポート報告件数</td><td>43件</td><td>25件</td><td>40件</td></tr> </tbody> </table> <p>スタッフのコロナ罹患による離脱を防ぎつつ、安定した医療体制を維持するため、対象者のスクリーニングや検査体制の整備、感染対策指導の実施を継続した。</p> <p>施設の老朽化による換気機能低下の問題に対しては、排気口のメンテナンスの実施やヘパフィルター空気清浄器の追加導入準備といった対応に繋げることができた。</p> <p>12月からは、ICTラウンドの実施頻度を高めた。現場の指導監督・助言を通して感染対策を強化することができた。（部署数に関わらず1週間に1回→1ヶ月に全部署実施）。</p> <p>また、インフルエンザ対策として、予防薬内服を導入することで、家庭内感染からの離脱者を大幅に抑制することができた。</p> <p>社会のコロナ対応が変化する中で、当院においても、現状に則した見直しを随時行った。（入館者の体調チェック体制、PPEの着用基準の再周知、院内における感染対策への理解協力依頼及び啓蒙等）</p>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	医療安全対策委員会等開催数	12回	12回	前年度並み維持	医療安全研修等実施回数	2回	8回	10回	インシデントレポート報告件数	1,496件	1,977件	1,600件	アクシデントレポート報告件数	43件	25件	40件	エイト 1 評価 IV	
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																							
医療安全対策委員会等開催数	12回	12回	前年度並み維持																							
医療安全研修等実施回数	2回	8回	10回																							
インシデントレポート報告件数	1,496件	1,977件	1,600件																							
アクシデントレポート報告件数	43件	25件	40件																							

			<p>感染対策に係る物品の整備を行った。(陰洗ボトル、布団干しスタンド、ベット周りの整備用ネット、ベッドパンウォッシャー、オムツカート、小児科外来用パーテーション、ウェルパスフォーム、備品積載カート等)</p> <p>(院内感染対策の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内感染対策委員会等開催数</td><td>10回</td><td>12回</td><td>12回</td></tr> <tr> <td>感染管理チームラウンド回数</td><td>24回</td><td>55回</td><td>50回</td></tr> <tr> <td>院内感染対策研修会等開催数</td><td>10回 (1, 164名)</td><td>13回 (2, 273名)</td><td>25回</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	院内感染対策委員会等開催数	10回	12回	12回	感染管理チームラウンド回数	24回	55回	50回	院内感染対策研修会等開催数	10回 (1, 164名)	13回 (2, 273名)	25回		
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																		
院内感染対策委員会等開催数	10回	12回	12回																		
感染管理チームラウンド回数	24回	55回	50回																		
院内感染対策研修会等開催数	10回 (1, 164名)	13回 (2, 273名)	25回																		
<p>① 医療の標準化と最適な医療の提供</p> <p>効果的な医療を提供できるよう、クリニカルパスを有効に活用すること。</p>																					
<p>(17) ③効果的な医療を提供できるよう、クリニカルパスの有効活用に努める。</p> <p>③同左</p> <p>クリニカルパス適用患者数は、令和4年度と比較して1,852件増加し、適用率は66.5%となり院内におけるパス適用を活発に進めている結果となった。令和5年度より事務部門のパス委員会への参画が定着し、経営の視点を加えてパス作成・修正を行った。診療ガイドライン等を参考に、使用頻度の少ないパスの整理やDPC分析を用いた新規パスの作成・既存パスの修正に努め、パス種類数は319件となった。また、令和5年度より進めていた地域連携パス(誤嚥性肺炎)が2病院との連携で46件の適用となった。</p> <p>(医療の標準化と最適な医療の提供の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス適用患者数</td><td>6,057人</td><td>7,909人</td><td>前年度並みを維持</td></tr> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td><td>312(累計)</td><td>319(累計)</td><td>前年度並みを維持</td></tr> </tbody> </table>						指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	クリニカルパス適用患者数	6,057人	7,909人	前年度並みを維持	クリニカルパス種類数	312(累計)	319(累計)	前年度並みを維持				
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																		
クリニカルパス適用患者数	6,057人	7,909人	前年度並みを維持																		
クリニカルパス種類数	312(累計)	319(累計)	前年度並みを維持																		
<p>② 法令の遵守及び行動規範に沿った業務運営</p> <p>医療法や個人情報保護、情報公開等の法令を遵守し、また、行動規範に沿って適正な業務運営を行うこと。</p>																					

(18)	④法令の遵守及び行動規範に沿った業務運営	④医療法や個人情報保護、情報公開等に関する院内研修会を実施し、法令を遵守し、行動規範に沿って適正な業務運営を行う。		令和5年度は、全職員対象の研修を18件実施できた。法令遵守に関わる研修としては、個人情報関連でサイバー攻撃の脅威とその対策についての対面研修を8月に実施できた。また、全職員対象ではなく事務職員対象であるが、労働基準法に関する労務管理等を学ぶ研修も2回行い、58名が参加した。 行動規範に関わる研修としては、ハラスメント防止研修と医療メディエーション研修を対面で開催した。	エイト 1 評価 III									
				(コンプライアンスの関連指標) <table border="1"><thead><tr><th>指標名</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和5年度目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>研修会開催数</td><td>0回</td><td>3回</td><td>2回</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>0人</td><td>470名</td><td>全職員対象</td></tr></tbody></table>		指標名	令和4年度	令和5年度	令和5年度目標	研修会開催数	0回	3回	2回	参加者数
指標名	令和4年度	令和5年度	令和5年度目標											
研修会開催数	0回	3回	2回											
参加者数	0人	470名	全職員対象											
4. その他参考情報														
—														

様式1－1－4－3 年度評価 項目別評定調書（第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 患者サービスの向上）

1. 当項目に関する情報	
	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 患者サービスの向上
業務に関連する政策・施策	<p>(1) 快適性及び利便性の向上 患者や来院者により快適な環境を提供するため、施設の改修・補修を実施するとともに、プライバシーの確保に配慮した院内環境の整備に努めること。 利便性の向上を図るために、患者満足度調査等のモニタリングを通じ、改善に努めること。</p> <p>(2) ボランティアとの協働の推進 ボランティアとの交流や意見交換を通して、協働を推進すること。</p> <p>(3) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、職員の接遇向上に努めること。</p>
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載

2. 主要な経年データ												
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報							②主要なインプット情報				
	指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
患者サービスの向	入院患者満足度調査 (満足+やや満足)		97.3%	未実施	未実施	94.5%	未実施		—	—	—	—

上の関連指標	外来患者満足度調査 (満足+やや満足)		96.2%	未実施	未実施	96.5%	未実施			—	—	—	—	—
	外来診療待時間調査 (満足+やや満足)		59.7%	未実施	未実施	61.2%	未実施			—	—	—	—	—
	施設設備に対する苦情件数		12 件	6 件	5 件	27 件	3 件			—	—	—	—	—
	ボランティア登録人数		11 名	11 名	11 名	11 名	11 名			—	—	—	—	—
	ボランティア活動時間		527.6 時間	活動なし	活動なし	活動なし	活動なし			—	—	—	—	—
	職員の接遇に対する苦情件数		19 件	6 件	13 件	16 件	6 件			—	—	—	—	—

### 3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価

	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価			評価委員会意見	市長による小項目評価
				業務実績				

#### 3 患者サービスの向上

##### (1) 快適性及び利便性の向上

患者や来院者により快適な環境を提供するため、施設の改修・補修を実施するとともに、プライバシーの確保に配慮した院内環境の整備に努めること。また利便性の向上を図るために、患者満足度調査等のモニタリングを通じ、改善に努めること。

(19)	3 患者サービスの向上 (1) 快適性及び利便性の向上  患者や来院者に快適な環境を提供するため、必要に応じ施設の改修・補修を実施するとともに、引き続きプライバシーの確保に配慮した院内環境の整備に努める。 また、利便性の向上を図るために、外来及び入院患者満足度調査等のモニタリング	3 同左 (1)同左	手術室空調・電気設備工事  急救センター空調更新工事  ICU・NICU・3階東病棟 335 号室 HEPA フィルター取替工事  北館直流電源改修工事  4 階東浴室タイル補修工事	2 階手術室（3 ルーム、5 ルーム）の空調設備のクリーン度を保つための電気集塵器が経年により故障したため、HEPA フィルター式の空調設備更新工事を行い手術室の環境改善を図った。照明も取替し手術室の照度を改善した。  地下 1 階急救センターの空調設備が経年により故障が多発したため、更新工事を実施し環境改善を図った。  2 階 ICU、3 階 NICU、3 階東病棟 335 号室の HEPA フィルター取替を行い、クリーン度向上による環境改善を行った。  北館直流電源装置が経年による故障により充電制御ができない状況になってしまったため、充電部の改修工事を行い、非常時の発電機や照明等へ電源を供給できるように対応した。  4 階東浴室（男女）の一部内装タイルが破損しており、清潔度及び安全度が低下していたため、タイル張替工事を実施して環境改善を図った。	カエバ 1 評価 III		
------	--	---------------	--	---	-----------------------	--	--

			<p>を行い、改善に努める。</p> <p>急病センター待合い床シート張替え工事</p> <p>エアコン分解洗浄</p> <p>患者満足度調査</p>	<p>地下1階急病センターのビニル床シートに膨れ及び剥がれがあり、通行者が転倒する危険があったため、床シート張替工事を実施して転倒リスクを低減した。</p> <p>1年を通じて計画的に外来及び病棟のクーラーを中心に、エアコン内部の汚れやカビを分解洗浄し空調環境改善を行った。</p> <p>令和5年度は組織編成の過渡期であったことから、事務部門の業務分掌についての調整事項が多かったため、患者満足度調査については実施を見送ることとなった。</p> <p><b>【患者サービスの向上の関連指標】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>(参考)令和元年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td><td>1,006人中749人が回答 うち97.3%満足</td><td>460人中146人が回答 うち94.5%満足</td><td>未実施</td></tr> <tr> <td>外来</td><td>500人中485人が回答 うち96.2%満足</td><td>500人中470人が回答 うち96.5%満足</td><td>未実施</td></tr> <tr> <td>待ち時間</td><td>500人中485人が回答 うち59.7%満足</td><td>500人中470人が回答 うち61.2%満足</td><td>未実施</td></tr> </tbody> </table>		(参考)令和元年度	令和4年度	令和5年度	入院	1,006人中749人が回答 うち97.3%満足	460人中146人が回答 うち94.5%満足	未実施	外来	500人中485人が回答 うち96.2%満足	500人中470人が回答 うち96.5%満足	未実施	待ち時間	500人中485人が回答 うち59.7%満足	500人中470人が回答 うち61.2%満足	未実施		
	(参考)令和元年度	令和4年度	令和5年度																			
入院	1,006人中749人が回答 うち97.3%満足	460人中146人が回答 うち94.5%満足	未実施																			
外来	500人中485人が回答 うち96.2%満足	500人中470人が回答 うち96.5%満足	未実施																			
待ち時間	500人中485人が回答 うち59.7%満足	500人中470人が回答 うち61.2%満足	未実施																			

## (2) ボランティアとの協働の推進

ボランティアとの交流や意見交換を通して、協働を推進すること。

(20)	(2) ボランティアとの協働の推進  ボランティアサポート委員会によるボランティア活動の円滑な推進を図り、交流や意見交換を通して協働を推進する。	(2) 同左		感染対策のため院内への入出館に制限を設けており、ボランティアの参加制限、活動制限を引き続き継続した。ボランティアが従来行っていた3階庭園の緑化活動は造園担当者が引き続き継続している。	カエト 1 評価 II	
------	--	--------	--	---	----------------------	--

## (3) 職員の接遇向上

患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、職員の接遇向上に努めること。

(21)	(3)職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、院内接遇研修等を通して職員の接遇向上に努める。	(3)同左		新規採用職員対象のオリエンテーションにおいて、ビジネスマナー研修を外部講師に依頼し実施した。 この研修では新規採用職員一人ひとりが、病院の顔としての重要性を意識し、また社会人としてのマナーの基本を身につける機会となった。	ウエイト 1 評価 III		
------	---	-------	--	---	------------------------	--	--

#### 4. その他参考情報

—

様式1－1－4－4 年度評価 項目別評定調書（第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置）

1. 当項目に関する情報																											
		第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項																									
業務に関連する政策・施策		（1）P D C Aサイクルの確実な実践 （2）院内連携の推進 ①チーム医療の推進 ②多職種連携の推進 （3）働きやすい職場環境づくり							当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)			—															
当該項目の重要度、難易度		ウエイト付けは各項に記載							関連する政策評価・行政事業レビュー			—															
2. 主要な経年データ																											
①主要なアウトプット（アウトカム）情報							②主要なインプット情報																				
指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度															
後発医薬品使用率		89.3%	93.7%	83.2%	89.8%	88.9%			—	—	—	—															
3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価																											
中期目標		年度計画		主な評価指標		法人の業務実績・自己評価						評価委員会意見															
						業務実績																					
中期目標 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項																											
1 P D C Aサイクルの確実な実践																											

地方独立行政法人制度の特長を活かし、自立性、機動性、柔軟性及び効率性の高い病院運営を行えるよう、業務運営体制を構築すること。また、職員の意識改革を推進し、継続的な業務改善への取り組みを通し、PDCAサイクルの確実な実践に努めること。

(22)	1. PDCAサイクルの確実な実践 地方独立行政法人制度の特長を活かし、自律性、機動性、柔軟性及び効率性の高い病院運営を行えるよう、業務運営体制を整備する。 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価で指摘のあった項目の改善への取り組みやTQM活動を通して、改善活動を継続する。 また、職員の意識改革を推進し、継続的な業務改善への取組を通し、PDCAサイクルの確実な実践に努める。	1 同左	災害時対応への取り組みについて  NST  がん相談支援・情報の提供  在宅医療・介護連携  子ども虐待への対応  安全確保に向けた情報収集と検討を行う取組みについて	<p>BCPに基づく災害対策本部の設置、担当業務の割り当て、被害状況の確認、通信環境の確保といった本部機能を運営する訓練を令和6年1月に実施した。並行して、九州沖縄DMAT実働訓練に那覇市立病院として参加し、病院避難のミッションが課せられた。建物の被害状況、院内インフラの被害状況などから、病院避難を選択し、沖縄県外のDMATを受け入れ、協力しながら入院患者の搬送を行った。</p> <p>新病院においては地域災害拠点病院の機能をもつことを想定し、今後も沖縄県内外の災害訓練への参加、研修受講を継続的に実施する。</p> <p>コロナ禍でNSTメンバーとなるための実習に行くことができておらず、有資格者が減少していたため、栄養サポートチーム加算の算定率が低下している。改善を目指し、1名が資格を取得した。</p> <p>患者・家族が気軽に相談出来るよう、がん相談支援センター直通電話を開設した。これまでの対面相談、電話相談に加え、オンライン相談を開始した。患者・家族の心の悩みや体験を語り合う場として、年6回患者サロンを開催した。</p> <p>地域と顔の見える関係を構築し、連携体制の強化のため、訪問診療先と定期的に意見交換や勉強会を行った。</p> <p>在宅療養の環境整備が円滑に進むよう、那覇市医師会の在宅医療・介護連携推進事業への参加やちやーがんじゅう課認定グループとの話し合いを継続して行っている。</p> <p>子ども虐待の早期発見、早期支援が出来るよう、CPT(子ども家族支援チーム)を立ちあげ、外傷等で受診した小児患者への事故再発予防指導と市町村への情報提供を行った。家庭環境として早期に支援が必要な事例については、適宜カンファレンスを開催するなどして連携を図った。</p> <p>インシデントレポート報告数を増やす取り組みとして、令和5年12月から、セーフマスターの報告システムと併用して、簡易版のインシデント報告システム（インシデントレベル2以下の報告専用）の運用を開始した。開始した翌月の1月から0レベルの報告件数が増加した。その他の効果として、1または2レベルの事象を0レベルと間違えて報告する件数も減少した。</p>	エイ 1 評価 IV	
------	---	------	---	--	---------------------	--

		<p>文書管理に関する取り組みについて</p> <p>在宅注射オーダーへの取り組み</p> <p>病棟配置薬の見直しへの取組み</p> <p>医師の働き方改革について</p>	<p>令和4年度同様、院内文書全体の把握・承認・改訂履歴の一括管理の整備及び運用を行った。引き続き整備していく。</p> <p>これまで在宅への注射薬オーダーは、電子カルテでは対応できておらず、手書き処方箋での運用であったが、効率化、医療安全面でも問題があり、電子カルテでの運用を医師、看護師、薬剤師、医事課等、チームで検討を重ね、薬品マスター、注射オーダーを工夫して活用、電子カルテを利用し在宅注射オーダーを実施することができた。</p> <p>平成30年の病院機能評価で各病棟に配置薬が多く、医療安全面から改善するよう指摘を受けていたことから、病棟配置薬の見直しに継続して取り組んでいる。下剤、整腸剤・止痢剤、胃薬、制吐剤及びその他の消化器系薬剤、口腔・上気道系薬剤、降圧剤、抗血小板・抗凝固剤、循環器系薬剤、内服抗菌剤等、多種の配置薬剤の絞り込みを行い、医局へ報告、院内パス委員会のメンバーとも情報を共有して、パスの変更を実施した。</p> <p>令和6年度から始まる医師の働き方改革により、時間外・休日労働時間が月100時間以上となることが見込まれる医師について、面接指導を実施し健康状態や勤務状況を確認し、必要に応じて就業上の措置を講ずる事が必要となる。26名の医師に面接指導実施医師の養成研修を受講してもらい、面接指導の運用及び体制の構築を行った。また、令和5年10月より面接指導のトライアルを開始した。</p>		
--	--	---	--	--	--

## 2 院内連携の推進

### (1) チーム医療の推進

医療環境の変化に対応し、疾病や患者の状態に応じた医療を提供するため、質の高いチーム医療を推進すること。

(23)	(1) チーム医療の推進 医療環境の変化に対応し、疾病や患者の状態に応じた医療を提供するため、質の高いチーム医療を推進する。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、検査技師、栄養士、歯科衛生士等により医療安全対策、	(1) 同左	<p>緩和ケアチーム</p> <p>呼吸ケアチーム</p>	<p>緩和ケア認定看護師やがん専門看護師が計6名おり、スムーズな対応やサポートができた。感染対策をとりながら十分な体制を取ることができた。</p> <p><b>【緩和ケア診療加算件数】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緩和ケア診療加算件数</td><td>1,646件</td><td>1,481件</td></tr> </tbody> </table> <p>呼吸ケアチーム(RST)のチーム回診では集中ケア認定看護師、特定行為研修を修了した看護師が参加し看護へのアドバイスをおこなっている。 加算件数が令和4年度と比べて減少しているのは、RRS(院内迅速対応システム)チームを立ち上げたことにより、早期に呼吸管理に介入できるようになったためと考えられる。</p>		令和4年度	令和5年度	緩和ケア診療加算件数	1,646件	1,481件	<p>ナイト 1 評価 III</p>	
	令和4年度	令和5年度										
緩和ケア診療加算件数	1,646件	1,481件										

<p>感染防止対策、呼吸ケア、緩和ケア等のチームによる診療報酬に則した活動を継続する。</p>	<p>栄養サポートチーム</p>	<p><b>【呼吸ケアチーム加算件数】</b></p> <table border="1" data-bbox="837 165 1585 239"> <thead> <tr> <th></th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>呼吸ケアチーム加算件数</td><td>34件</td><td>22件</td></tr> </tbody> </table> <p>栄養サポートチーム（NST）以外に摂食嚥下機能回復加算、骨折リエゾン、緩和ケアチーム、連携充実加算、入院時支援加算、心不全等の診療報酬に関わるチーム医療にも参画している。</p> <p><b>【栄養サポートチーム加算件数】</b></p> <table border="1" data-bbox="837 457 1585 531"> <thead> <tr> <th></th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栄養サポートチーム加算件数</td><td>584件</td><td>569件</td></tr> </tbody> </table>		令和4年度	令和5年度	呼吸ケアチーム加算件数	34件	22件		令和4年度	令和5年度	栄養サポートチーム加算件数	584件	569件		
	令和4年度	令和5年度														
呼吸ケアチーム加算件数	34件	22件														
	令和4年度	令和5年度														
栄養サポートチーム加算件数	584件	569件														

## (2) 多職種連携の推進

診療科間や医療部門と事務部門間の連携を強化するなど、多職種連携を推進し組織力の向上に努める。

<p>(24)</p>	<p>(2) 多職種連携の推進 診療科間や医療部門と事務部門間の連携を強化するなど、多職種連携を推進し組織力の向上に努める。</p>	<p>(2) 同左</p>	<p>院内バス委員会での多職種連携強化</p> <p>令和5年度より事務部門のバス委員会への参画が定着し、経営の視点を加えてバス作成・修正を行った。診療ガイドライン等を参考に、使用頻度の少ないバスの整理やDPC分析を用いた新規バスの作成・既存バスの修正に努め、バス種類数は令和4年度の312件から319件に増加した。 また、毎月開催する委員会では、多職種を組み合わせた5、6名のチームを編成し、そのチームごとに報告を行う形式に変更した。多職種で治療の標準化を進めることで、よりバスへの理解が深まった。バス適用率も令和4年度の59.4%から66.5%に上昇した。</p>	<p>ウエト 1 評価 IV</p>	
-------------	--	---------------	--	--------------------------------	--

## 3 働きやすい職場環境づくり

安全衛生管理を徹底するとともに、職員のワークライフバランスに配慮した働きやすい環境づくりに努めること。

<p>(25)</p>	<p>3 働きやすい職場環境づくり</p>	<p>3 同左</p>	<p>役割分担の推進</p>	<p>医師や、医師以外の他の医療スタッフの負担軽減を検討するため、病院職員の役割分担推進委員会を年2回開催した。当該委員会で、各部門のタスクシフト・タスクシェアの状況や、各医療職の業務の負担を減ら</p>	<p>ウエト 1 評価</p>	
-------------	-----------------------	-------------	----------------	--	-------------------------	--

	安全衛生管理を徹底するとともに、ワークライフバランス推進委員会の活動を通して職員のワークライフバランスに配慮した働きやすい環境づくりに努める。	医師の働き方改革への対応	すための計画を策定し、当該計画に基づき負担軽減を行い、各職種が働きやすい職場環境作りに努めている。  令和6年4月1日からの医師の時間外労働の上限規制開始にあたり、当院は地域医療確保のため、沖縄県よりB水準の指定を受けた。B水準の指定を受けた事で、連続勤務時間及び勤務間インターバルの管理や代償休息の付与等、医師の健康確保措置が義務となつた。現行の勤怠システムでは対応が難しくなると考えられたため、令和5年度で医師の働き方改革に対応した勤怠システムの業者選定を行つた。新システムは令和6年10月に本稼働予定となっている。新システム移行後は、時間外勤務の状況を、所属長及び医師自身がリアルタイムで把握できるようにするため、システムの構築及び、医師の時間外の申請の運用変更の検討を行つた。	IV	
--	---	--------------	--	----	--

様式1－1－4－5 年度評価 項目別評定調書（第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置）

1. 当項目に関する情報					
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置					
業務に関する政策・施策	(1) 経営機能の強化 (2) 収益的収支の向上 (3) 弹力的な予算執行と費用節減 (4) 経営の効率化 (5) 病院事業運営費負担金に関する事項	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—		
当該項目の重要度、難易度	ウェイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	—		

2. 主要な経年データ								
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報							②主要なインプット情報
	指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
収支改善の指標	経常収支比率(%)		103.7%	108.4%	113.7%	103.6%	95.5%	指標
	医業収支比率(%)		102.8%	93.4%	91.3%	93.3%	91.3%	令和2年度
収入確保の指標	病床稼動率		93.7%	79.3%	73.7%	72.8%	79.0%	令和3年度
	入院診療単価		62,397円	69,930円	74,466円	76,671円	76,489円	令和4年度
								令和5年度

	外来診療単価		19,477 円	24,739 円	27,145 円	26,428 円	26,152 円																					
3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価																												
中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価				自己評価			評議委員会意見	市長による小項目評価																	
			業務実績																									
中期目標																												
第3 財務内容の改善に関する事項																												
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとするべき措置	第3 同左																											
1 経営機能の強化																												
診療報酬の改定や患者の動向を見極め、迅速に情報の収集及び分析をしたうえで、対応策を立案し、的確な対応を行うこと。																												
(26)	1 経営機能の強化 診療報酬の改定 や患者の動向を見極め、迅速に情報の収集及び分析をしたうえで、対応策を立案し、的確な対応を行う。	1 同左	診療報酬の請求漏れや減点を防止する取り組み	令和4年診療報酬改定の対応は適切に行えた。コロナ感染拡大によって通常の診療報酬ルールとは異なる臨時の取扱の診療報酬請求を行うことで得られた教訓を整理し、今後の情報収集・分析に生かした。  コロナ感染拡大の影響を受け開催出来なかった保険診療委員会を令和5年11月より再開し医事課にて査定内容の精査及び対策の報告を行い、再審査請求の可否等の確認、診療報酬に対する医療者側への啓発も行った。  DPC（診断群分類包括評価）については診療情報管理士及び主治医と連携して診療内容に沿った適正な請求を行うよう努めた。	未収金防止対策として無保険等の患者に対して医療相談員へ早期介入の依頼を行った。また約束不履行により発生した未収金を入院時衣類等提供サービス加入者に対しては入院費補償サービス会社へ請求を行い、未収金の早期回収に努めた。  窓口での患者資格情報等（加入している医療保険、自己負担限度額等）がリアルタイムで確認出来るようになり、期限切れの保険証での受診がなくなり過誤請求の処理や患者への再確認等の手間が未然に防止できている。また、マイナンバーカードでの本人確認により、同意に基づいて特定健診や薬剤情報が閲覧できるようになり、患者の記憶頼りの問診ではなく正確な情報を診療に活かせるようになった。利用率が低い（約4%）ことが課題である。	査定率	査定率について、目標達成には至らなかった。救急医療係数向上のために救急医療管理加算の算定期数が増えた事が要因となった。※救急医療管理加算除く査定率では0.19%で目標値0.20%を達成している。	Ⅵ 1 評価 Ⅲ																				

			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>査定率</td><td>0.24%</td><td>0.29%</td><td>0.2%以下</td></tr> </tbody> </table> <p>(参考) 査定率全国平均 (令和2年3月)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払基金</th><th>0.255%</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国保連</td><td>0.250%</td></tr> </tbody> </table> <p>厚生労働省保険局 審査支払機関の現状と課題について資料2 「支払基金と国保連の原審査状況」より</p>		令和4年度	令和5年度	令和5年度目標	査定率	0.24%	0.29%	0.2%以下	支払基金	0.255%	国保連	0.250%		
	令和4年度	令和5年度	令和5年度目標														
査定率	0.24%	0.29%	0.2%以下														
支払基金	0.255%																
国保連	0.250%																

## 2 収益的収支の向上

病床稼働率の向上や適正な診療収入の確保に努め、収益確保を図ること。

(27)	2 収益的収支の向上  病床稼働率の維持・向上や適正な診療収入の確保に努める。	2同左	病床稼働率の維持・向上  DPC/PDPS の機能評価係数の内容を検討し係数を高めるための対策  施設基準の取得	<p>令和5年度開始時は感染状況が落ち着き通常診療をメインに行えるようになってきた。病床稼働率は79.0%と、令和4年度と比較して6.2%上昇し、外来患者延数、入院患者延数は令和4年度を上回り、外来収入、入院収入も増加となった。</p> <p>令和5年度に開設した法人本部より、毎日の病床稼働状況や収益等について、経営陣をはじめ診療科部長、各病棟師長、コメディカル部門の長、事務局課長以上の職員等に向け、毎朝のミーティングで情報の共有を行った。</p> <p>(収入確保の指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床稼動率</td><td>72.8%</td><td>79.0%</td><td>90.3%</td></tr> <tr> <td>入院診療単価</td><td>76,671円</td><td>76,489円</td><td>76,000円</td></tr> <tr> <td>外来診療単価</td><td>26,428円</td><td>26,152円</td><td>28,000円</td></tr> <tr> <td>【参考】 平均在院日数</td><td>11.22日</td><td>10.29日</td><td>前年度並みを維持</td></tr> </tbody> </table> <p>救急医療管理加算の算定要件見直しを適時行った。令和3年度より継続している救急医療管理加算の算定件数増加の取り組み、及び医師指示の運用見直し等を行うことで、機能評価係数II項目の救急医療指数は上昇し続けている。 令和2年度実績 0.00519 → 令和3年度実績 0.01521 → 令和4年度実績 0.01593 → 令和5年度実績 0.0252</p> <p>処置及び手術の休日加算・時間外加算・深夜加算の施設基準を「2」から「1」に変更した。その他にも新規の施設基準として、腹腔鏡下膵臍瘍摘出手術、外来栄養食事指導料1、BRCA1/2 遺伝子検査等を取得した。</p>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	病床稼動率	72.8%	79.0%	90.3%	入院診療単価	76,671円	76,489円	76,000円	外来診療単価	26,428円	26,152円	28,000円	【参考】 平均在院日数	11.22日	10.29日	前年度並みを維持	エイト 1 評価 III
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																						
病床稼動率	72.8%	79.0%	90.3%																						
入院診療単価	76,671円	76,489円	76,000円																						
外来診療単価	26,428円	26,152円	28,000円																						
【参考】 平均在院日数	11.22日	10.29日	前年度並みを維持																						

## 3 弾力的な予算執行と費用節減

弾力的な予算執行により、効率的・効果的な事業運営に努めるとともに、費用の節減等を図ること。																
(28)	3 弾力的な予算執行と費用節減 弾力的な予算執行により、効率的・効果的な事業運営に努めるとともに、費用の節減等を図る。	3 同左	<p>法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い効率的・効果的な事業運営に努める。</p> <p>薬品、診療材料等の購入価格の低減及び適正な在庫管理及び費用節減の取組み</p> <p>適正な後発医薬品の採用促進による患者の負担軽減と法人の費用節減</p> <p>適正な在庫管理</p>	<p>コロナ5類移行による制限緩和と患者数の復調により医業収益は増収となつたが、院内クラスターの発生及び医療スタッフ確保の困難等により455床全稼働には至っておらず、収益の確保は厳しい状況が続いている。費用の支出は年々増加する一方だが、予算執行においては会計実施規程等に基づき適正かつ効率的・効果的な事業運営を行い、補助金等を有効活用することにより自己財源確保に努めた。</p> <p>【令和5年度の新規補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療通訳者、外国人患者受入れ医療コーディネーター配置等支援事業に係る医療通訳配置等間接補助事業補助金</li> <li>・観光振興事業費補助金（災害・急病等危機管理対応事業）</li> </ul> <p>医薬品の供給不足は解決されておらず、代替薬等の対応で多忙となっており、後発薬品から先発薬品へ、やむなく切り替える事例も増えている。それでも、後発医薬品使用率の低下を踏まえ、供給等、対応可能な後発医薬品については、入れ替えを進め、88.9%の使用率となった。今後も引き続き供給問題に対応し、後発薬品への入れ替えを実施する。</p> <p>保険材料の適正請求及び適正支払について、患者に手渡される診療明細書に記載される保険材料、特に診療材料の医事算定と診療材料の使用状況照合の徹底を行った。過誤請求及び過剰請求、算定漏れ防止を目的として医事課・各臨床現場と連携し“漏れなく正しい”レセプト請求の一助として通年業務として令和4年度と同様に継続して取り組んだ。</p> <p>目標値の85%以上を達成できたが、主に後発医薬品の供給不足問題が長期化しており、大きな影響を受けた。医薬品が供給されず、急遽、代替医薬品を探す業務が生じ先発医薬品に変更せざるを得ない状況となった。</p> <p>（経費節減の指標）後発医薬品使用率の目標（数量ベース）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>後発医薬品使用率</td><td>89.8%</td><td>88.9%</td></tr> </tbody> </table> <p>適正な在庫管理について、毎月1回、各部署へ診療材料の払い出し実績・長期在庫を含めたデータを提供し、現場の適正定数把握のサポートを行った。</p>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	後発医薬品使用率	89.8%	88.9%	ウエ 1 評価 III					
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績														
後発医薬品使用率	89.8%	88.9%														
4 経営の効率化																

経営収支比率と医業収支比率について数値目標を設定し、経営の効率化を図ること。																			
(29)	4 経営の効率化 経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定し、経営の効率化を図る。	4 同左		<p>令和5年度目標は経常収支・医業収支ともに赤字の見込みであったが、医業収支は目標を下回る91.3%、経常収支は95.5%で目標達成となった。</p> <p>医業収支は、入院及び外来患者数が復調傾向にあり収益の増加に繋がったが、新病院開院(470床稼働)へ向けた人員整備等による給与費の増加や原材料費高騰による購入価格の上昇、さらに新病院建設工事費支払いに伴う消費税計上による経費の増加も重なり医業費用が医業収益を大きく上回り、目標の95.0%に3.7ポイント届かなかった。</p> <p>令和5年度は既存病棟解体に伴うアスベスト除去費用(資産除去債務)として臨時損失(386,288,510円)を計上したため、当期純損失1,148,311,545円を計上した。</p> <p>(経営の効率化に関する指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和5年度目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率(%)</td><td>103.6%</td><td>95.5%</td><td>95.0%</td></tr> <tr> <td>医業収支比率(%)</td><td>93.3%</td><td>91.3%</td><td>95.0%</td></tr> </tbody> </table>	指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標	経常収支比率(%)	103.6%	95.5%	95.0%	医業収支比率(%)	93.3%	91.3%	95.0%	ウエ 2 評価 III		
指標名	令和4年度実績	令和5年度実績	令和5年度目標																
経常収支比率(%)	103.6%	95.5%	95.0%																
医業収支比率(%)	93.3%	91.3%	95.0%																
5 病院事業運営費負担金に関する事項 救急医療、小児・周産期医療等、病院事業運営費負担金の対象となる経費に係る収支状況等を分析し、その詳細を本市に情報提供すること。																			
(30)	5 病院事業運営費負担金に関する事項 救急医療、小児・周産期医療等、病院事業運営費負担金の対象となる経費に係る収支状況等を分析し、その詳細を那覇市に情報提供する。	5 同左		<p>令和5年度病院事業運営費負担金については、コロナ5類移行による制限緩和と患者数の復調により入院収益等の改善が見られた一方、原材料費の高騰及び人員整備等の影響を受け増加した経費もあった。</p> <p>なお、救急医療、小児・周産期医療等の収支状況等について、分析自体は行っていなかったが、情報提供として週1回の調整会議等において随時報告した。</p> <p>令和5年度決算時点の運営費負担金の増減状況 【令和4年度決算額と比較し増減が生じた経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療に要する経費(増額)</li> <li>・救急医療に要する経費(増額)</li> <li>・高度医療(放射線)に要する経費(増額)</li> <li>・研究研修に要する経費(増額)</li> <li>・医師確保対策に要する経費(増額)</li> <li>・(建設改良に要する経費)有形固定資産購入費(増額)</li> <li>・企業債元金償還に要する経費(増額)</li> </ul>	ウエ 1 評価 III														
4. その他参考情報																			

--

様式1－1－4－6 年度評価 項目別評定調書（第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置）

1. 当項目に関する情報													
		第4 その他業務運営に関する重要事項											
業務に関連する政策・施策		1 施設設備等に関する事項 2 市立病院建替に関する事項 3 外国人患者に対応できる医療の提供						当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)		—			
当該項目の重要度、難易度		ウエイト付けは各項に記載						関連する政策評価・行政事業レビュー		—			
2. 主要な経年データ													
		①主要なアウトプット（アウトカム）情報						②主要なインプット情報					
	指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	—	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—
3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価													
	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価						評議委員会 意見	市長による 小項目評価		
				業務実績								自己評価	
中期目標													
第4 その他業務運営に関する重要事項													
第4 その他業務運営に関する重要事項													
1 施設設備等に関する事項 新病院建設を踏まえ、現病院施設の改修、設備等の更新及び維持管理については、医療資源等を的確に把握した上で、効率的な整備計画を策定し実施すること。特に、医療機器の整備・更新については、費用対効果、地域の医療機関との連携、医療需要及び医療技術の進展等から総合的に判断すること。													
(31)	1 施設設備に関する事項 新病院建設を踏まえ、現病院施設の改修、設備等の更新及び維持管理については、医療資源等を的確に把握した上で、効率的な整備	1 同左		下記のとおり、改修及び修繕を契約し実施した。 ・手術室の空調・電気設備工事 ・急病センターの空調更新工事 ・ICU・NICU・3階東病棟 335号室のHEPA フィルターの取替工事 ・北館の直流電源改修工事 ・4階東病棟の浴室タイル補修工事 ・急病センターの待合床シートの張替え工事 ・エアコンの分解洗浄						加付 1 評価 III			

計画を策定し実施する。 特に、医療機器の整備・更新については、新病院への移設費用等を含めた費用対効果、地域の医療機関との連携、医療需要及び医療技術の進展等から総合的に判断する。					
---	--	--	--	--	--

## 2 市立病院建替に関する事項

事業主体として、引き続き新病院建設に取り組むこと。また、総事業費の縮減に向けて留意すること。なお、診療を継続しながらの建設となることから、患者の療養環境の確保に努めること。

(32)	2 事業主体として、総事業費の縮減に留意し、引き続き新病院建設に取り組む。 また、診療を継続しながらの建設となることから、患者の療養環境の確保に努める。	2 同左	令和4年度に引き続き、安全第一、かつ、診療に極力影響を与えないことに留意し工事を行っている。工事内容等の院内出入り口電子掲示板でのお知らせ、院内への事前連絡等について徹底するとともに、騒音・振動等について十分配慮している。また、月に2回「新病院ジャーナル」を発行して工事状況を職員向けに発信することで、工事への理解や関心等を持つてもらう工夫を行っている。	カエト 1 評価 III	
------	---	------	---	-----------------------	--

## 3 外国人患者に対応できる医療の提供

外国人患者に対応できる診療体制の整備に努めること。

(33)	3 タブレット通訳端末の配置継続、外国語表記への対応、医療者と患者をつなぎ、医療資源を有効活用できるようコーディネート業務を担う人材配置へ取り組む。	3 同左	<p>令和5年5月より、コーディネーター3名配置に伴い国際医療支援室の開設、12月にはJMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）を取得した。</p> <p>JMIPの受審を通して、外国人患者対応マニュアル、コミュニケーションツールの作成、通訳タブレットの台数増加など、これまで以上に院内整備の強化ができた。また、スタッフへ外国人患者受入れの意識向上のため、外部から講師を招き研修を実施した。</p> <p>患者対応ではコーディネーターが3名配置になったことで対面、電話、メールなど幅広く対応ができるようになった。</p> <p>令和5年度からコロナの渡航制限も緩和され、外国人受診者数は930件から1,500件に増加した。そのうち、訪日外国人の受診者数が令和4年度と比べ約6.5倍に増加した。その中で救急受診から入院になることも多く、海外の旅行保険会社と医療費や帰国調整など交渉し、患者が不安なく過ごせる環境作りを行った。また救急受診時の診断書発行について現場スタッフの業務負担と患者の待ち時間軽減につながる体制作りをした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【参考数値】</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国人受診者数 (入院・外来の合算 延べ件数)</td><td>930件</td><td>1,500件</td></tr> </tbody> </table> <p>※これまでと集計方法は同様であるが、単位を「人」ではなく「件」とする。 ※一人の患者が同日に複数診療科を受診する場合はその診療科の数だけ集計。同日再診も同様。</p>	【参考数値】	令和4年度	令和5年度	外国人受診者数 (入院・外来の合算 延べ件数)	930件	1,500件	エト 1 評価 V	
【参考数値】	令和4年度	令和5年度									
外国人受診者数 (入院・外来の合算 延べ件数)	930件	1,500件									

#### 様式1－1－4－7 項目別調書（第5 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画）

1. 当項目に関する情報											
第5 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画											
業務に関連する政策・施策	法の趣旨に沿って、市からの運営費負担金の確保を図り、起債を安定的に活用し、市の病院として公的使命を果たせる経営基盤を維持していく。 ※ 財務諸表及び決算報告書を参照			当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—						
当該項目の重要度、難易度	—			関連する政策評価・行政事業レビュー	—						
2. 主要な経年データ											
①主要なアウトプット（アウトカム）情報					②主要なインプット情報						
指標	達成目標	(参考) 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

様式1－1－4－8 項目別調書（第6 短期借入金の限度額）

1. 当項目に関する情報			
	第6 短期借入金の限度額		
業務に関連する政策・施策	1 限度額 1,000 百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1) 運営費負担金の受け入れ遅延等による資金不足の対応 (2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な支出への対応	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—
当該項目の重要度、難易度	—	関連する政策評価・行政事業レビュー	—
中 期 目 標	中 期 計 画	年 度 計 画	実 施 状 況
—	1 限度額 1,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1)運営費負担金の受け入れ遅延等による資金不足の対応 (2)予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な出費への対応	1 限度額 5,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1)運営費負担金の受け入れ遅延等による資金不足の対応 (2)予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な支出への対応 (3)新病院建設工事等に係る一時的な支出増加への対応	令和5年度は、年度計画で想定された短期借入金を要する資金不足の状況は発生せず、事業資金は医療機器購入及び新病院建設に使用した長期借入金等を除き自己資金で賄った。

様式1－1－4－9 項目別調書（第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画）

1. 当項目に関する情報			
	第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		
業務に関連する政策・施策	—	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—
当該項目の重要度、難易度	—	関連する政策評価・行政事業レビュー	—
中 期 目 標	中 期 計 画	年 度 計 画	実 施 状 況
—	なし	なし	該当なし

様式1－1－4－10 項目別調書（第8 剰余金の使途）

1. 当項目に関する情報			
	第8 剰余金の使途		
業務に関連する政策・施策	決算において剰余を生じた場合は、市立病院施設の整備又は医療機器の購入等に充てる。	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—
当該項目の重要度、難易度	—	関連する政策評価・行政事業レビュー	—

中期目標	中期計画	年度計画	実施状況
－	決算において剩余を生じた場合は、市立病院施設の整備又は医療機器の購入等に充てる。	同左	令和5年度決算においては損失が生じたため、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てるための積み立ては行っていない。

様式1－1－4－11 項目別調書（第9 料金に関する事項）

1. 当項目に関する情報			
	第9 料金に関する事項		
業務に関連する政策・施策	<p>1 診療料等 病院において診療又は検査を受ける者から診療料を、病院の施設を利用する者から使用料を徴収する。 (1) 診療料の額は、診療報酬の算定方法(平成20年厚生労働省告示第59号)及び入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養費の費用の額の算定に関する基準(平成18年厚生労働省告示第99号)及び後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額(平成19年厚生労働省告示第395号)により算定した額とする。ただし、これにより難い場合にあっては、理事長が別に定める額とする。 (2) 使用料の額は、理事長が別に定める額とする。</p> <p>2 文書料 病院において診断書、証明書等の交付を受ける者から1通につき、理事長が別に定める額の文書料を徴収する。</p> <p>3 徴収猶予等 (1) 理事長は、災害その他特別の理由により使用料又は文書料の納付が困難と認められる者に対しては、徴収を猶予し、又は分割して徴収することができる。 (2) 理事長は、使用料又は文書料の納付が著しく困難と認められる者に対しては、これを減免することができる。 (3) 理事長は、前号の場合において、詐欺その他不正行為により使用料又は文書料の減免を受けたと認めるときは、減免措置を取り消すことができる。 (4) 既納の使用料又は文書料は還付しない。ただし、理事長は特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。</p>	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	平成20年厚生労働省告示第59号 平成18年厚生労働省告示第99号 平成19年厚生労働省告示第395号
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	－
中期計画		年度計画	実施状況
1 診療料等 病院において診療又は検査を受ける者から診療料を、病院の施設を利用する者から使用料を徴収する。	1 同左 (1) 同左		診療報酬点数表を基に、診療報酬を算定し診療料を徴収した。

<p>(1) 診療料の額は、診療報酬の算定方法(平成 20 年厚生労働省告示第 59 号)及び入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養費の費用の額の算定に関する基準(平成 18 年厚生労働省告示第 99 号)及び後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額(平成 19 年厚生労働省告示第 395 号)により算定した額とする。ただし、これにより難い場合にあっては、理事長が別に定める額とする。</p> <p>(2) 使用料の額は、理事長が別に定める額とする。</p> <p>2 文書料</p> <p>病院において診断書、証明書等の交付を受ける者から 1 通につき、理事長が別に定める額の文書料を徴収する。</p> <p>3 徴収猶予等</p> <p>(1) 理事長は、災害その他特別の理由により使用料又は文書料の納付が困難と認められる者に対しては、徴収を猶予し、又は分割して徴収することができる。</p> <p>(2) 理事長は、使用料又は文書料の納付が著しく困難と認められる者に対しては、これを減免することができる。</p> <p>(3) 理事長は、前号の場合において、詐欺その他不正行為により使用料又は文書料の减免を受けたと認めるときは、减免措置を取り消すことができる。</p> <p>(4) 既納の使用料又は文書料は還付しない。ただし、理事長は特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。</p>	<p>(2) 同左</p> <p>2 同左</p> <p>3 同左</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) 同左</p> <p>(3) 同左</p> <p>(4) 同左</p>	<p>使用料等の徴収については、地方独立行政法人那覇市立病院使用料等に関する規程「規程第 35 号」に定める額を徴収した。</p> <p>診断書、証明書、その他（介護保険主治医意見書、障害者自立支援法医師意見書等）について、地方独立行政法人那覇市立病院使用料等に関する規程「規程第 35 号」に定める額を徴収した。</p> <p>徴収猶予等について、地方独立行政法人那覇市立病院使用料等に関する規程「規程第 35 号」第 6 条第 2 項で使用料等の減免手続きについて規定している。</p>
---	---	---

#### 様式 1－1－4－12 項目別調書（第 10 那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則第 7 条で定める事項）

1. 当項目に関する情報			
		第 10 那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則第 7 条で定める事項	
10 業務に関連する政策・施策	1 施設及び設備に関する計画 2 積立金の処分に関する計画 前期中期目標期間繰越積立金については、市立病院施設の整備又は医療機器の購入等に充てる。	当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)	—
当該項目の重要度、難易度	—	関連する政策評価・行政事業レビュー	—
中期目標	中期計画	年度計画	実施状況

—	①施設及び設備に関する計画 (令和2年度～令和5年度)			① 施設及び設備に関する計画 (令和5年度)								
	施設及び設備の内容	予定額	財源	施設及び設備の内容	予定額	財源						
	病院施設、医療機器等整備	総額 19,122 百万円	那覇市長期借入金等	病院施設 医療機器等整備	総額 9,174 百万円	那覇市長期借入金等						
	(注1) 金額については見込みである。											
	(注2) 各事業年度の那覇市長期借入金等の具体的な内容については、各事業年度の予算編成過程において決定される。											

様式1－1－4－13 項目別調書（第11 那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則第8条で定める事項）

1. 当項目に関する情報																			
		第11 那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則第8条で定める事項																	
11 業務に関連する政策・施策		中期目標の期間を超える債務負担 1 移行前地方債償還債務 2 長期借入金 3 リース債						当該事業実施に係る根拠 (個別法条文など)		—									
当該項目の重要度、難易度		—						関連する政策評価・行政事業レビュー		—									
中期目標	中期計画						年度計画			実施状況									
—	1 移行前地方債償還債務 (単位：百万円)						1 同左			1 同左									
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	中期目標期間	償還額	次期以降	償還額	総債務	年度項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	中期目標期間	償還額	次期以降	償還額	総債務
0	0	0	0	0	0	0	0	0	年度項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	中期目標期間	償還額	次期以降	償還額	総債務	
2 長期借入金 (単位：百万円)										2 長期借入金 (単位：百万円)									
年度項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	中期目標期間	償還額	次期以降	償還額	総債務	年度項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	中期目標期間	償還額	次期以降	償還額	総債務

	長期借入金 償還金	328	389	536	588	1,841	17,479	19,320		長期借入金 償還金	328	215	266	391	1,199	13,713	14,911		長期借入金 償還金	328	215	266	391	1,199	5,921	7,119
3 リース債 (単位：百万円)																										
3 同左																										
	償 還 期 間	中 期 事 業 費	次 期 以 降 事 業 費	總 事 業 費																						
器等	医療機	令和2年度～ 令和5年度	0	0	0																					

※端数切り上げのため合計額は一致しません。